

愛知医科大学 学報



平成21年度医学部卒業記念品
「ステンドグラス 橘ーきらめく実りー」



平成21年度看護学部卒業記念品
「ナイチンゲール関係の貴重書」

＝ 第118号 ＝
2010.4月

愛知県愛知郡長久手町

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主 な 目 次 ■

平成22年度入学式	2
平成21年度卒業式	6
平成22年度予算大綱	12
学長退任ごあいさつ	16
就任ごあいさつ	17
退職を迎えて	31
病院イベント	33
健康と病気	50

平成22年度 愛知医科大学入学式

医学部・看護学部入学式



平成22年度入学式が、平成22年4月7日（水）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

式は、君が代斉唱に始まり、医学部109名、看護学部106名計215名の新入学生が紹介された後、新入学生を代表して医学部の山田千晶さんから「学則並びに諸規則を守り、本学学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」と宣誓が行われました。

続いて、石川直久学長から告辞が、来賓の三宅養三理事長、安藤不二夫医学部父兄後援会長及び加藤真司医学部同窓会長から祝辞がありました。

告 辞

学 長 石川直久



本日から諸君は愛知医科大学医学部・看護学部で学ぶことになりました。まず最初に、本学の教育方針ならびに設立の経緯を簡単に申し上げます。医学部は1972年すなわち昭和47年に設立され、38年後の現在3,294名が卒業して、3,245名98.5%の医師を世の中に送り出していました。看護学部は、2000年に設置されこの7年間に742名

最後に看護学部4学年次生の安藤優里さんから「これから医療に携わろうとしている私たちにとっては、人との関わりがとても大切になると思います。多くの出会いを大切にしつつ、個々の人々が抱える思いや気持ちなど、見えないものにも目を向け、感じることを理解することに努めてください。」と歓迎の辞が述べられ午前10時50分ごろ式は終了しました。



宣誓を述べる山田さん



安藤さんからの歓迎の辞

が卒業して738名が看護師と保健師になっております。両学部とも建学精神に基づき優良な医療人の育成に努めておりまして、卒業生はみな社会において活発に活動しております。両学部はいずれもこの不景気の中でも人気の学部であり、多くの学生が入学を希望しており応募者数は医学部では約2,600名、看護学部では約1,000名でした。諸君はの中で厳選され、本学に入学できたことは、勉学が優秀であるだけでなく医学・看護学を学んでいきたいという意欲を汲み取れたからです。諸君は今後立派な医師・看護師になれるものとし

て誇りを持ってください。また、この入学に際してのご家族の応援に感謝してください。

今後の学生生活は、医学部の6年間、看護学部の4年間と長きにわたりますので、心身とも健全に送られることを切に願っています。そして全員無事卒業できることを期待します。そのため、精神力と体力を培ってください。学業は一日にしてならず、ステップワイズに着実に全うしてください。基礎を固めることが第1優先項目で、大学が提示する目標および方針に沿った学習と、自主的な学習があり、とくに後者では人としての倫理観、自然の摂理、生物化学、社会秩序等々の大きな視野に立ってバランス良く学び取っていくことが大事です。医学、看護学だけではなく意欲的な勉学を行って頂いて、悔いのない学生生活を送られることを希望して告辞とします。

祝 辞

理事長 三宅 養三



理事長の三宅です。新入生のみなさま本当におめでとうございます。

また、今日多数お集り頂きましたご父兄のみなさまにも心からお祝い申し上げます。私、新入生諸君のお顔とご父兄のお顔をずっと壇上で見ていたわけですけど、ご父兄のお顔の方がよほど輝いて見えるのが不思議でございました。これも無理はないことでして、しっかり手塩にかけてお育てになった子供さんたちが、このように立派な入学式をお迎えになったということで、ご父兄の方も大変お喜びのことは重々お分かり致しております。おめでとうございました。

今日は、新入生のみなさまにもあるいはご父兄のみなさまにも通ずる話を一つだけ致します。ごあいさつにさせて頂きたいと思っています。私は眼科医でして、多くの大学で今

まで教育・研究・臨床・手術など、色々なことを経験してきました。私は教育ということにも非常に興味を持っておったのですが、私の人生で忘れられない出来事が一つございますので、その話をさせて頂きたいと思います。

それは、今から10数年前、私がこの大学ではなくて、名古屋の別の大学にいた頃の話ですけど、ある時、私のもとにイギリスの医学生から手紙が参りました。その学生さんは、ニューキャッスルというロンドンからずっと北の方にあがったところがございますが、その医学部の学生で、高学年でもうあと1、2年で卒業という学生でした。その学生の手紙には、自分の大学では夏休みが2か月あり、それをはさんで3か月くらい外国の大学や病院で見習いといいますか、実習・研究といったことで過ごすことで、大学で講義を受けたのと同じように単位を取得できるという規則がございまして、それに応募し、日本で3か月くらい過ごしてみたいということでした。イギリスという国に私も興味もございましたし、それでは是非と思ったのですが、ヒッピーみたいのが来ても困るものですから、一度面接をしようということで面接をいたしました。当時、名古屋の小牧空港からイギリスのヒースローに直行便が毎日飛んでおりまして、ヨーロッパに行くときにはいつも小牧からヒースローに行って、そこらから飛行機を変えて色々な国へ行くということにしております。ちょうど1か月後にヨーロッパに行く用事があり、ヒースロー空港に学生さんをお迎えです。その学生さんの名前は、ピーター・ギャロウエーという名前で、ピーターという名前はよくあるのですが、ギャロウエーという名前は少し変わった名前と思われるかもしれませんが、イギリスで他にギャロウエーという人を知っていたので、よくある名前かなとあまり違和感を感じませんでした。

彼がヒースロー空港へニューキャッスルか

らやってきて、面接をしたのですが、非常に背が高く初々しくて好感が持てる青年でした。私が最初に聞きましたのは「なぜあなたは日本で学びたいと思うのですか。」と聞きましたら、彼は非常に良いことを言うのです。どういことを言ったかという、「日本は敗戦国で打ちのめされたのに経済はぐんぐんと復興した。しかし、日本の行政は必ずしも医療・医学に十分な援助をしているとは思えない。それにも拘わらず日本の基礎医学あるいは臨床医学のどちらも非常に発展した。その理由がどこにあるかを知りたい。」ということを行いました。実際確かにそうでした、1970年代や80年代の前半では、私の専門である眼科をみても、まだ世界で順番からいくと随分下であったのですが、1980年後半から90年に差し掛かりぐんぐんと伸び、1位はアメリカ。2位がイギリスだったのを抜きまして、2位が日本になってそれは現在も不変です。日本の医学・医療がどうしてこんなに伸びたかという疑問が一つ。

それからもう一つは、「日本の医療は世界に冠たるものではないですか。」と言うのです。これもすごく良く知っていると思います。日本は、非常に良い医者から安い治療費で医療を受けられるという特別な国で、これは日本だけです。そういう観点からみた場合、日本の医療は世界のトップです。このことは、意外に国民は知らないですが、実はそうなのです。それを医学部の学生が知っているということに非常に感激しまして、是非いらっしゃいと言ったのですが、どうもお金が無いらしくて、名古屋にどこか安い下宿や寮がないかと盛んに聞くのです。それでは、自分の家に小さな部屋があるのでそこでホームステイするかと言いましたら、彼は本当に嬉しそうな顔をして是非ということ、で、すごく背が高いので天井にぶつかるのではないかと思うような学生でしたけれども家へ下宿させて3か月一緒に暮らしたわけです。

彼は非常に熱心で、私が朝7時に出勤して夜は10時、11時に帰るのですが、必ず私の車で大学へ行き、帰るときも必ず一緒に帰るということが続けて、行き帰りに今日何をしたかなど色々な話をしました。医局員に好かれて、帰国するときには、彼のために医局で小さなパーティーを開きまして、イギリスに帰っていきました。3週間くらい後に彼からお礼の手紙がきました。更にもう一通の手紙がきまして、それはニック・ギャロウエーという人からの手紙でした。このニック・ギャロウエーという人は、私も眼科学会で良く知っておりまして、学会の役員で、私も役員をしており、理事会等でよく知りあった人でした。それが彼のお父さんでした。そのことを一言もピーターの口からもお父さんの口からも言いませんでした。その時にお父さんのニック・ギャロウエーは非常に謝られて、「一言も言わなかったのは教育を考えたためである。もしあなたに言えば、彼に対して色々な優遇をしたり、遠慮したりするので、それでは教育にならないので申し訳ないけれども黙っていた。」ということが手紙に書かれていました。私はびっくりし、その考え方に感心しました。その後がもっとすごくて、ニック・ギャロウエーは、すごい大金持ちということがわかりました。すごい豪邸に息子さんと住んでおり、その豪邸に住んでる人が私の家の小さな部屋と一緒に暮らしたことがあとから考えると恥ずかしかったのですが、ただ、もっとびっくりしたのは、息子には絶対厳しく、非常に質素でお金は本当に最小限しか出さないにも拘わらず、お父さんは大学には毎年多額の寄附をしておられたそうです。これを知り私は本当に感心しました。

この良い教育者の父親と良い教育を受ける息子のペアがすごく輝いて見えました。実際そのピーター・ギャロウエーは、その後、眼科医になりぐんぐん成長し、今やイギリスの眼科学会の中枢に迫る勢いで活躍しています。

最後になりますが、ご父兄のみなさま、今日は本当におめでとうございます。しかし、どうか愛知医科大学の学生になられた子供さんには厳しく質素にしつけて頂き、それが結局その学生さんを伸ばすことになります。もし学生さんにそのようなお金を援助したいな

らば、是非、大学の方の教育資金に援助して頂ければ、それが良い教育に結びつき、結局この学生さんたちのためになるということを私は理事長の立場から一言述べて、お祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。

大学院入学式

平成22年度愛知医科大学大学院入学式が、平成22年4月7日（水）午前9時20分から大学本館701会議室において行われました。【写真】

式は、看護学研究科修士課程8名、医学研究科博士課程31名の計39名の新入学生が紹介された後、新入学生を代表して医学研究科の小西裕子さんから「学則並びに諸規則を守り、本学大学院学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」と宣誓が行われました。

続いて、石川学長から告辞が、三宅理事長から祝辞が述べられ式は終了しました。



平成21年度愛知医科大学卒業証書・学位記授与式

医学部・看護学部卒業証書・学位記授与式



平成21年度卒業証書・学位記授与式が、平成22年3月6日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。
【写真】

式は、君が代斉唱に始まり、稲福繁学長から医学部102名、看護学部112名の卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。

続いて、稲福学長から告辞があり、来賓の三宅養三理事長、安藤不二夫医学部父兄後援会長、加藤真司医学部同窓会長から温かいご祝辞を頂きました。この後、在学を代表して医学部5学年次生の服部正典さんから送辞が、卒業生を代表して看護学部の山田里奈さんから答辞が述べられ、卒業記念品の贈呈、大学歌の斉唱が行われ、午前11時40分ごろ式は終了しました。

告 辞



学 長 稲 福 繁

本日ここに、医学部102名、看護学部112名のみなさんが、晴れて卒業の日を迎えられました。ご本人及びご家族の方々に、改めて心からのお祝いとお喜びを申し上げます。おめでとう

ございます。

卒業生のみなさん、みなさんは来月には、社会人としての第一歩を歩み始めます。この記念すべき時に、愛知医科大学長として、2、3の希望を述べ学長告辞とさせていただきます。

卒業生のみなさん、まず初めに、この愛知医科大学の卒業生として、大きな誇りを持って各界で活躍されることを願っています。愛知医科大学は、先輩や職員の努力にもよりますが、年々歳々、社会的評価が上がっていると確信しております。昨年の国家試験の合格率は、努力する余地はあったと思いますが、両学部とも納得できる成績でした。また、全国の医学部学生に行われた、いわゆるCBTですが、徐々に成績が向上しております。今年の愛知医科大学の入学試験も多くの若者が全国からこの大学を希望し、受験しにきました。また、医学部・看護学部のみならず、愛知医科大学病院も大きな社会的貢献を果たしております。最近、救急患者のタライ回しが、新聞紙上で話題になっています。しかし、私どもの愛知医科大学病院は、救命救急科を中心に全科で時間外外来や救急患者を受け入れる体制を作っています。年間、実に、23,000名以上の時間外救急患者を受け入れています。この救急外来には、臨床研修医や卒後3年目の専修医を中心に更にその上の指導医も準備し、受け入れ態勢に万全を期しています。この態勢は、医師、看護師、コメディカルなど多くの職員の献身的な協力がなければできません。これが、大学病院の社会的貢献だということです。このように、職員総出の努力が、この地の他の大学病院でできたのでしょうか。愛知医科大学病院だけと言っても過言ではありません。卒業生のみなさん、繰り返しますが愛知医科大学を卒業されたことに大きな誇りを持って活躍してください。

第二に、医療人の先輩として、みなさんに希望します。みなさんは、まず、病院に勤務

されると思いますが、医師または看護師として実力をつけていってください。医療は基本的には、患者さんを中心にしたものです。患者中心の医療、これは口で云うのは簡単ですが、実行するのは大変です。つまり、医療は単にやさしいだけでは成り立ちません。各人が、責任ある態度と高度な技術や知識を伴わなければいけません。社会人になりましたら、まず、自分の力を高めるために日夜、努力してください。先輩の医師や看護師、医療関係者とのコミュニケーションを誠実に心掛けていってください。その中で技術を習得し、人間としての信頼を勝ち得てください。夜間、救急の患者さんを診ていますと、逃げ出したいような事態に遭遇することも稀ではないと思います。どうぞ、現場では逃げずに闘って自らを鍛えてください。これが第二の希望です。

第三に、みなさんが、これから船出して行く医療の現場についてです。医療は、今、経済的には厳しいものがあります。多くの地方で、医師や看護師が不足し、診療科の閉鎖や病院の閉鎖さえ連日、報道されています。医師や看護師は、食事を摂れないほど忙しく当直明けの連続勤務も珍しくありません。職員が足りないことが原因ですが、入院患者数と病院の職員数を比較しますと、わが国では、アメリカの実に6分の1から10分の1の職員だそうです。病院の職員数が少ない、これは、医療費を低く抑えようとする国の政策によって多くの病院が赤字になっているからです。

卒業生のみなさん、多忙な病院生活で、周囲に目を向ける余裕がないかも知れませんがどうぞ、周囲の社会にも目を向ける努力をしていってください。社会は、一人だけ幸福で生きられるものではありません。協力し、助け合ってこそ、素晴らしい社会ができると信じています。

最後に、愛知医科大学の責任者の一人としてお願いがあります。愛知医科大学は、今年度まで、キャンパス整備をしてきました。立

体駐車場や保育所は完成し、医学部・看護学部学生が使用する医心館も完成致しました。この次は、新病院建設を急がなければいけません。新聞報道でお読みになったかと思いますが、確かに一時的に困難に陥っていることは否めません。しかし、大学執行部は全力を尽くして、新病院建設へのアクセルを踏み直しております。早晩、新病院計画が狙上に上がると思います。この新しい愛知医科大学病院は、900名を超す看護師が働き、各科で多彩な高度な専門医や専門看護師を擁する病院にする予定です。研究の活性化や新病院の発展にも卒業生の力はどうしても必要です。どうかこの愛知医科大学病院に目を向けられ、新病院建設へのご協力ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

以上、希望とお願いを述べ学長告辞とさせていただきます。

祝 辞

理事長 三宅 養三



充実しました学生生活を終えられ、晴れて本日卒業式を迎えられました医学部・看護学部生のみなさまに心からお祝い申し上げます。

私は、去る1月28日に理事長に就任しました三宅でございます。よろしく申し上げます。理事長になりましてからこの1か月の間、愛知医科大学を私立医科大学として更に発展させるにはどのような努力をするべきかを考えてまいりました。私は過去に三つの大学を経験しておりますが、どの大学もその発展にいろいろな方策を立てておりました。その中で私の心に強く残っているものにハーバード大学医学部の哲学がございます。ご存じのようにハーバード大学は米国屈指の名門であり、長い歴史を持つ私立大学です。愛知医科大学と同様に理事長、理事、学長、医学部長のよう

な大学運営の執行部，多数の教授陣，教授以外の大学スタッフ，それに学生から成っている大学です。そこにはハーバードイズムと呼ばれる哲学がありました。

ハーバード大学がこのような超一流の大学になったのも，この哲学を長年にわたり大学の価値観として職員が共有してきた結果ではないかと思います。ハーバードイズムとは，次のようなことを意味していると思います。まず執行部は大学の大きな方向を誤らないような重要なかじ取りをする必要があります。特に良い教授を選ぶことは大学の命運を決める一つの要素となり，大変な努力をしております。しかしもっと大切なのは実は教授以外のスタッフであると考えています。更にスタッフの中でも年齢が若くなればなるほど大学にとって重要になってくるという考え方です。卒業してプロの道に入ったばかりのいわゆるレジデントの教育が大学の将来にとって極めて重要であるという考え方です。すなわちこれからの数年がみなさんにとっても大学にとっても本当に大事な時期なのです。みなさんの学生時代は終わりましたが，ハーバードイズムで一番大事なのは学生教育であると結んでおります。

みなさんは4月からプロの道に入ります。私は眼科医ですが私の人生を振り返っても，卒業して数年に学んだことが自分の一生の方向を決めたように思います。若い人が大学にとっていかに重要かを大学職員の共通した価値観として頂きたいと願いますし，同時にみなさんのような若い人がこれから人生の最も大事な時期にさしかかることも十分に意識して頑張ってほしいと思います。

最後になりますが，卒業アルバムに一言書くように依頼され，「運 鈍 根」と揮毫しました。これから進まれる医療の道に早道はありません。しっかり腰を据えて，努力してください。勉強して考えながら医療を行っていると，よい研究の花が咲いたり自分の正しい方向性が見えてくるものです。医療は人と

のコミュニケーションが基本です。どのような接し方が患者さんの心を癒すか等々は教科書には書いてありませんので，若い時代により先輩から盗んでください。母校を愛してください。

本当におめでとうございます。ご健闘を祈ります。



送 辞

在学生 服部 正典さん



今日ここに晴れの日を迎えられましたのは、ご家族の無償の愛、先生方の熱心なご指導もさることながら、みなさまの不断努力が実を結んだ結果であると思

います。

共に学び、共に遊び、楽しい時を共有させて頂きました。予期せぬ出来事に心折れそうな日々、励まし見守ってくださったのは先生方であり、卒業生のみなさまでした。目を閉じれば、様々な場面や言葉が浮かび忘れることはできません。言葉にはできない万感の想いが溢れてきます。

明日をも予測できない激動の時代に於いて、如何なる時も自分を見失わず信念を貫くことの大切さと共に、周囲の声に耳を傾け、冷静な判断をくだせる平常心を常に持ち続ける精神力を卒業生のみなさまから学びました。一見無駄だと思われることも、実は未来に繋がっていると教えてくださったのも卒業生のみなさまでした。卒業生のみなさまは私たちの誇りです。みなさまの姿に励まされて、私たちは頑張ってくることができたのです。

絶え間なく変化する状況の中で、唯一変わらないものは『心の絆』ではないでしょうか。私たちは卒業生のみなさまの軌跡を道標として、心の絆を大切に生きていきたいと思

答 辞

卒業生 山田 里奈さん



私たち214名は今日、愛知医科大学を卒業いたします。

この晴れの日を迎えることができましたことに、喜びを感じるとともに、これ

まで支えてくださった多くの方々に深く感謝いたします。

新たな生活への期待と不安を胸に抱き、この学び舎の門をくぐったあの日のことが、今とても懐かしく思い出されます。入学してから今に至るまで、様々なことを経験し、感じ、学びを深めてきましたが、そのどれもがこれから医療従事者として歩みだす私たちにとって、かけがえのないものであったと思います。

様々な背景とともに、様々な価値観を持った、個性あふれる多くの方々との出会いは、自分自身を見つめ直し、理想の医療を追い求めようとする機会を私たちに与えてくれました。また、経験や思いを共有できる多くの方々や仲間の存在・温かさに触れることができたからこそ、私たちは辛いことや投げ出したくなるような場面でも決して挫けることなく、今日まで頑張ってくることができました。

これから私たちは、人々の健康を支援する医師又は看護専門職者として、これまで以上に日々学びを深めるとともに、人格、知識、技術を高め、自分の持つ最大限の力で最善の治療やケアが提供できるよう精進していきたいと思

大学院学位記授与式

平成21年度大学院学位記授与式が、平成22年3月6日（土）午前9時20分から大学本館701会議室において行われました。【写真】

式では、看護学研究科修士課程修了者2名、医学研究科博士課程修了者11名一人ひとりに、稲福学長から学位記が授与されました。

続いて、稲福学長から告辞が、三宅理事長から祝辞が述べられ式は終了しました。



平成21年度 医学部卒業記念品

ステンドグラス「橘ーきらめく実りー」寄贈

平成21年度医学部卒業生からの卒業記念品として7号館（医心館）2階吹抜け部にステンドグラスが寄贈され、平成22年3月29日（月）に除幕式が行われました。

当日は、三宅養三理事長、稲福繁学長始め本学役職者、平成21年度卒業生が出席しました。

卒業生を代表し、青山正寛さんから卒業記念品の贈呈があり「今年の卒業記念品の選定は、医心館に何か花を添えるものを贈りたい、という気持ちからスタートしました。卒業試験や国家試験の直前になると、医心館全体が重い空気に包まれます。そんな重い空気を断ち切り、重圧に押しつぶされそうな学生の気持ちを、少しでもやわらげる卒業記念品としてステンドグラスに決定しました。作品としては、題を「橘ーきらめく実りー」とし、橘の葉の茂りと橘の実のなる様子を表現して頂きました。このステンドグラスのように光り輝く、明るい未来を迎えられるよう、卒業生一同頑張っていこうと思います。」と贈呈の言葉がありました。



最後に大学を代表して稲福学長から「綺麗な橘のステンドグラスをご寄贈頂きありがとうございます。カラフルになっていて、愛知医大の未来を作っているようで卒業生のみなさんの意気込みがわかります。この明さをバックに我が大学も更に一步一步前に発展させていきますので医者になっても母校を忘れず頑張ってください。」とお礼のあいさつがありました。

いつまでも大切にさせていただきます。ありがとうございました。

平成21年度 看護学部卒業記念品

「ナイチンゲール関係の貴重書」寄贈

平成21年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、大学本館5階医学情報センター（図書館）ホールに、今年がナイチンゲール没後100年目に当たることから、ナイチンゲール関係の貴重書2点（リバプール看護訓練学校における活動記録他）が寄贈され、平成22年3月8日（月）の午前10時から除幕式が行われました。

当日は、稲福繁学長、土井まつ子看護学部長、菅屋潤医学情報センター長などの本学役職者や看護学部の教員を始め、平成21年度卒業生が多数出席しました。卒業生を代表して森山真帆さんから卒業記念品の贈呈があり、「論語の中に孔子の『温故知新』という言葉がありますが、これから後輩達が様々な場面に遭遇した時、この書籍が、『それらをもう一度看護の原点に立ち返ってよく調査・研究し、それを参考に、今つき当たっている問題や新しいことがらについて考えていく』ための象徴として、勇気や希望を与えてくれる存



在となることを信じてやみません。」とのあいさつがありました。

最後に稲福学長から、「素晴らしい記念品をご寄贈頂きありがとうございます。後に続く在学生にとって勉学の励みとなり、良い刺激になると思います。みなさんもこの大学で学んだことを忘れることなく、それぞれの職場で頑張ってください。」とお礼の言葉が述べられました。

いつまでも大切にさせていただきます。ありがとうございました。

平成21年度 看護実践研究センター 認定看護師教育課程修了証書授与式挙行

昨年10月に開講した看護実践研究センター認定看護師教育課程の平成21年度修了証書授与式が、平成22年3月26日（金）午前10時から、7号館（医心館）多目的ホールにおいて挙行されました。

式は、開式の辞に続き、土井まつ子センター長から、感染管理分野21名、救急看護分野17名、計38名の修了生一人ひとりに修了証書が授与されました。【写真】

次いで、土井センター長から、「認定看護師認定審査に合格され、認定看護師として自らの専門性を十分発揮されるとともに、質の高い看護サービスを提供されますことを期待しております。」と式辞があり、続いて、稲福繁学長から、「修了生のみなさん全員が認定看護師となられ、それぞれの職場でリーダーシップを発揮されることを切に望みます。」



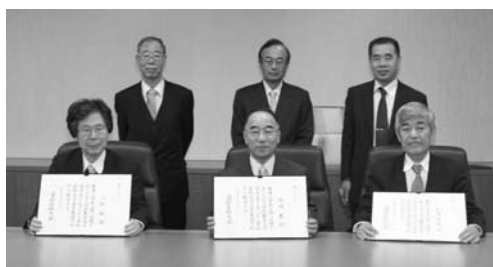
と祝辞がありました。

この後、修了生を代表して、感染管理分野の小澤賀子さんから、「第一回修了生として、その名に恥じぬよう、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献できる認定看護師を目指し、これからも日々努力してまいりたいと思います。」との謝辞があり、午前10時30分ごろ式は終了しました。

名誉教授称号授与式挙行

平成22年3月31日付をもって退任された稲福繁学長及び定年退職された小松徹教授（麻酔科学講座）、橋詰良夫教授（加齢医科学研究所）、松本義也教授（皮膚科学講座）に愛知医科大学名誉教授の称号が授与され、平成22年4月1日（木）午後0時10分から大学本館役員会議室において授与式が行われました。

授与式には、三宅養三理事長を始め石川直久学長、佐賀信介副学長・医学部長、島田孝一法人本部長、羽根田雅巳事務局長が出席し、三宅理事長から称号記が授与されました。



記念撮影【写真】の後、昼食を交えた懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、午後1時ごろ授与式は終了しました。

平成22年度予算大綱

医療収支差の改善

平成22年度予算が、平成22年3月23日の理事会、評議員会において決定されましたので、お知らせします。

平成20年に発生した金融危機以降の世界経済は、中国を始めとする新興国が、公共事業や個人消費の拡大などによって、いち早く回復の兆しを見せている一方、米国、欧州を中心とする先進国では、なかなか立ち直れない状況にあります。わが国経済も、生産や輸出の改善などに景気持ち直しの動きが見られるものの、雇用情勢の悪化やデフレの進行等、景気先行きの不透明感は拭い去れず、個人消費は引き続き低調に推移するものと思われます。

国の施策は、「医師不足解消のための医師養成と大学病院の機能強化」として、医師不足解消に向けた医学部定員増に伴う教育環境の整備が行われています。また、前政権の「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」により、平成19年から3年間に亘り96億円（毎年32億円）の削減が行われた私立学校等経常費補助金は、医師不足の解消や経営基盤の強化に取り組む大学等を重点的に支援するため、平成22年度予算では3,222億円と前年比4億円の増額となっています。

平成22年度の診療報酬改定は、「効率的で質の高い医療サービスの提供」や「医療現場の疲弊の改善」等を目指して、10年ぶりにネットプラス（全体改定率+0.19%）となりました。また、医療機関別係数も、効率性指数等の新たな機能評価係数が加えられる等、計算方法が大きく変更されることとなりました。診療報酬改定の基本方針としては、「救急、産科、小児、外科等の医療の再建」と「勤務医の負担軽減」が重点課題とされ、その他に「医療と介護の機能分化と連携の推進を通じ

て、質が高く効率的な医療を実施する視点」を始め、四つの視点が設けられています。診療報酬改定及び医療機関別計数の変更は、両者とも本院にとって有利な変更となっていますが、年率2%の勢いで増え続ける社会保障費を考えると、今回の改訂は決して楽観視できるものではありません。本院としても、診療報酬改定の方向性に沿った病院運営を実行してまいります。

本学においては、平成19年度以来、2期連続の帰属収支赤字を計上し、平成21年度決算見込みでもこの解消が困難な状況にあります。また、平成20年度に大幅な有価証券の評価損を計上し、自己資金の毀損により、平成21年度には、新病院建設計画の見直しと今後の慎重な検討を進めることといたしました。平成22年1月には、三宅養三理事が新理事長に就任し、4月には、任期満了に伴う役員の交代もあることから、新執行部体制の下で、本格的な現病院の改革、病院機能評価Ver.6の受審、新病院建設の検討等を全職員一丸となって推し進めることとしています。

なお、資金運用については、従来の運用方針に代わる資金運用規程の制定、資金運用委員会の設置等を行いました。より厳格な運用を行うことにより、今後の再発を防止することとしています。

業績については、病院の入院収入に対するDPC包括評価制度が導入された平成15年以降、継続して悪化傾向を示しています。主な要因としては、環境変化への対応の遅れが考えられますが、特に、ここ2、3年は新病院に向けた人的資源の先行投資等によるところが大きくなっています。本学は、医療収入が総収入（帰属収入）の約70%を占めており、医療収支の改善が大きなポイントとなること

から、現在、現病院の経営改革を喫緊の課題として、収入アップ策等に取り組んでいます。収入拡大のアクションプランとして、三つのプロジェクト「手術件数の拡大」、「放射線検査の拡大」、「病床稼働率の向上」を進める一方で、材料費の削減交渉等も実施しています。今回の診療報酬改定等のプラス要因とは別に、これら増収策等により更なる業績改善を図ることとします。

資金面においては、通貨オプション取引による外貨購入（外貨建MMFの購入）等も想定され、資金繰り動向により、有価証券の弾力的売却、短期資金のスポット的調達等の柔軟な対応をしていきます。

平成22年度予算は、「選択と集中」により収益性を重視した大学運営を進めるために、採算性や効率性の高い方策を積極的に取り入れて編成を行いました。

教育面においては、医学教育の充実を図るために、引き続き文部科学省補助事業「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」選定の「東海若手医師キャリア支援プログラム」に参画し、質の高い専門医及び臨床研究者を養成します。また、文部科学省補助事業「がんプロフェッショナル養成事業」に参画し、大学院学生等のがん治療を研究・学習する際、実習等をサポートします。厚生労働省補助事業としては、地域医療再生計画に基づき、愛知県による地域医療再生計画事業の一環で地域救急医療に関する研究及び救急医療に携わる専門医師等養成のための教育として、地域救急医療学寄附講座の設置及び運営を行います。一方、看護教育の充実を図るため、大学院看護学研究科に助教の配置を行い、急性期高度実践看護師（ANP/ACNP）の養成のための課程設置の準備にかかります。学部では、平成18年度からの新カリキュラム導入に伴い、平成21年度から新たに開講となった看護総合の試験問題のデータベース化と、データ分析をすることにより看護師・保健師国家試験に

準拠した看護総合試験及び学内試験の問題作成を支援し、教育の質及び国家試験合格率の向上を図るため、新たに教育支援ネットワークの構築を行います（2年計画1年目）。また、学生サービス・信頼性の向上を図るため、学生の学籍情報、成績管理及び履修登録などを一元化したシステムの完成年度を迎えます。

研究面においては、研究設備等として超高感度・超高精度タンパク質・ペプチド同定及び代謝物構造解析システム及び神経疾患統合診断研究システムを補助金対象備品として整備します。また、司法解剖における薬毒物検査レベルの向上と迅速化を図るために、UPLC/TQD法中毒分析システムを導入します。

診療面においては、医療機器の効率的運用を図るための医療職員の増員と看護業務の充実を図るため看護職員の増員等を行います。予約待ち時間の短縮や緊急検査及び治療への対応円滑化を図るため、血管撮影装置の更新と増設・MRI装置の増設・中央手術部手術室の増設・SICU病棟の設置整備を行い、検査件数及び手術件数の増加による収入の増加を目指します。また、患者アメニティーの向上を図るため、D病棟のトイレ改修工事を行います。

【主な事業計画】

1 大学・大学院関係

- ① 高度実践看護師養成課程の設置準備を行う。
- ② 教育研究用設備（超高感度・超高精度タンパク質・ペプチド同定及び代謝物構造解析システム、神経疾患統合診断研究システム）を導入する。
- ③ 地域救急医療学寄附講座の設置運営をする。
- ④ UPLC/TQD法中毒分析システムを更新する。
- ⑤ 大学本館・講義室A V装置を更新する。（3年計画3年目）

- ⑥ 看護学部学務情報システムを構築する。(2年計画2年目)
- ⑦ 教育支援ネットワークを構築する。(2年計画1年目)
- ⑧ 学術情報の電子情報提供サービスを推進する。

2 病院・メディカルクリニック関係

- ① 臨床研修の義務化への対応と優秀な医師を育成するための事業を推進する。
- ② 診療活動の充実を図るため看護職員、看護補助職員、診療放射線技師を増員する。
- ③ 薬学部6年制実務実習に対応するため、薬剤師を増員する。
- ④ 血管撮影装置を更新及び増設する。
- ⑤ MRI装置を増設する。
- ⑥ 中央手術部手術室を増設する。
- ⑦ SICU病棟の整備を行う。
- ⑧ D病棟トイレの改修を行う。
- ⑨ メディカルクリニック空調設備改修工事を行う。

3 その他

- ① 新病院建築設計料。
- ② A B病棟1F機械室空調用冷源更新工事を行う。(2年計画1年目)
- ③ 自動火災報知設備改修工事を行う。(3年計画1年目)
- ④ A B病棟屋上冷却塔更新工事を行う。(2年計画1年目)
- ⑤ A B病棟ナースコール設備更新工事を行う。(2年計画1年目)
- ⑥ C病棟屋上空冷チラー更新工事を行う。
- ⑦ D病棟熱源設備更新工事を行う。(2年計画1年目)
- ⑧ 非常放送設備改修工事を行う。(3年計画1年目)
- ⑨ 電力監視装置更新工事を行う。(3年計画1年目)

- ⑩ A B病棟第2電気室低圧配電盤及びOP室電源改修工事を行う。(2年計画1年目)
- ⑪ たちばなホール制御システム設備を更新し、保守事業を推進する。
- ⑫ 機械設備中央監視更新工事を行う。(3年計画1年目)
- ⑬ 事業所内保育所の運営。
- ⑭ 現病院の経営改革に係る外部コンサルタントを委託する。
- ⑮ 人事システムを更新する。(2年計画2年目)
- ⑯ スクールバスを更新する。
- ⑰ 施設設備の保守管理体制の充実を図る。

＜ 資 金 収 支 予 算 ＞

(単位：百万円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成22年度 予 算 額	平成21年度 予 算 額	増 減	科 目	平成22年度 予 算 額	平成21年度 予 算 額	増 減
学生生徒等納付金収入	4,915	4,929	△14	人 件 費 支 出	15,923	15,656	267
手 数 料 収 入	190	192	△3	教 育 研 究 経 費 支 出	14,678	13,880	798
寄 付 金 収 入	367	1,357	△990	管 理 経 費 支 出	793	864	△72
補 助 金 収 入	1,687	1,675	13	借 入 金 等 利 息 支 出	64	53	11
資 産 運 用 収 入	235	237	△2	借 入 金 等 返 済 支 出	1,298	727	571
資 産 売 却 収 入	3,000	3,034	△34	施 設 関 係 支 出	865	3,137	△2,272
事 業 収 入	208	214	△7	設 備 関 係 支 出	1,037	1,058	△21
医 療 収 入	24,515	22,929	1,586	資 産 運 用 支 出	3,298	3,400	△102
雑 収 入	323	431	△108	そ の 他 の 支 出	2,903	2,567	336
借 入 金 等 収 入	1,400	3,100	△1,700	〔 予 備 費 〕	200	100	100
前 受 金 収 入	1,033	985	47				
そ の 他 の 収 入	5,179	5,167	12				
資金収入調整勘定	△5,727	△5,301	△426	資 金 支 出 調 整 勘 定	△2,235	△2,236	1
前年度繰越支払資金	2,559	4,119	△1,560	次年度繰越支払資金	1,059	3,861	△2,803
収 入 の 部 合 計	39,883	43,068	△3,185	支 出 の 部 合 計	39,883	43,068	△3,185

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

＜ 消 費 収 支 予 算 ＞

(単位：百万円)

消 費 収 入 の 部				消 費 支 出 の 部			
科 目	平成22年度 予 算 額	平成21年度 予 算 額	増 減	科 目	平成22年度 予 算 額	平成21年度 予 算 額	増 減
学生生徒等納付金	4,915	4,929	△14	人 件 費	16,209	15,763	446
手 数 料	190	192	△3	教 育 研 究 経 費	16,914	16,053	861
寄 付 金	389	1,383	△994	管 理 経 費	887	987	△101
補 助 金	1,687	1,675	13	借 入 金 等 利 息	64	53	11
資 産 運 用 収 入	235	237	△2	資 産 処 分 差 額	20	405	△385
資 産 売 却 差 額	0	16	△16	徴収不能引当金繰入額	10	15	△5
事 業 収 入	208	214	△7	〔 予 備 費 〕	200	100	100
医 療 収 入	24,515	22,929	1,586				
雑 収 入	323	431	△108				
帰 属 収 入 合 計	32,462	32,006	456				
基本金組入額合計	△1,590	△1,639	49				
消費収入の部合計	30,872	30,367	505	消費支出の部合計	34,304	33,377	928
				当年度消費支出超過額	3,433	3,010	423
				前年度繰越消費支出超過額	30,813	27,230	3,583
				翌年度繰越消費支出超過額	34,246	30,240	4,006

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、
合計は必ずしも一致しない。



—愛知医科大学の33年間—

稲 福 繁

愛知医科大学に赴任したのは昭和52年4月、もう33年にもなります。恩師の瀧本勲先生が耳鼻咽喉科の2代目教授に就任され、自分から強く希望して先生に付いてきました。以来33年間、予想もしなかったのですが、人生の大半をこの愛知医科大学にお世話になったということです。心から御礼を申し上げます。赴任当時、医局は新任教授を含めて6名でした。この人数で百数十名の外来、年150例以上の中耳手術をやっていました。もちろん副鼻腔や癌の手術など、耳鼻咽喉科疾患全てを取り扱いました。その上、夜は実験もやっていました。しかし苦にはなりませんでした。自分から希望して赴任してきた大学ですし、上司の指導もあり夜中に呼び出されても安心して医療ができたからです。更に自分勝手な遊びもしていましたので、不満など言えたものではありません。これらは上司が大目に見てくれたからですが、今でもその懐の大きさに感謝しております。多くの同僚も助けてくれました。研究や臨床、みなさんの協力がなければできないことです。

今では、愛知医科大学耳鼻咽喉科同窓会は98名もの大きな所帯になりました。個人的には4代目教授に指名されました。教授就任後2年目に副院長になり、新臨床研修医制度を作り上げるよう指示がありました。初年度は30名の臨床研修医が集まりましたが、2年目以後希望者が少なくなりがっかりしたものです。しかし、現在では40名近くの希望者がおりますので、関係各位の努力に感謝したいと

思います。副院長時代には病院機能評価を受けたことが記憶に残っています。この機能評価こそ愛知医科大学の全職員・全職種が始めて力を合わせた歴史的出来事だったと思っています。

最後の4年間は学長職でした。加藤延夫理事長、石川直久医学部長、佐藤啓二副学長、伊藤隆之病院長、土井まつ子看護学部長などみなさんに真摯にご協力ご指導して頂き、有意義な4年間だったと感謝しています。ただし、残念ながら新聞で報道されたように新病院建設を控え保有有価証券に多大な評価損が発生しました。計画の見直しに迫られ今後の慎重な検討を進めることとしています。詳細は調査委員会の報告書にお任せしますが、少なくとも中枢部に説明がなかったことから、正確な把握がなされなかったことが原因です。すなわち、私を含む常任理事会のチェック機能が十分でなかったことが悔やまれます。この苦い経験を踏まえて、私どもは再発防止の機構作りを急いでいます。学長の最終年度はこの問題の解決に忙殺され、何にもできなかったというのが実情です。

現在、三宅養三理事長を迎え、新体制が作られました。三宅理事長を中心に全職員が結束すれば、この歴史的至難は乗り越えられると確信しています。幸い、一部に明るい兆しも見えてきていますので、みなさまのご協力をお願いしたいと思います。愛知医科大学の益々のご発展を祈念して、退職の挨拶に替えさせていただきます。



—これからの愛知医科大学—

学 長 石 川 直 久

本年4月1日をもって学長に就任いたしました。医学部長としての4年間に引き続き重責を担うこととなり、世界的不況の先行きが依然として見えず変動が大きく不安定な状況の中でこれからの大学運営を考えると、非常に身の引き締る思いです。

本学は、平成22年度入学試験において医学部と看護学部（205名定員）約3,600名という多くの志願者がありました。また、今までに3,245名の医師と738名の看護師・保健師を世に出し、みな良き医療人として活動しています。一方、病院においても経営向上のためのアクションプランが着々と進行しており、相当な収益の増加が見込まれています。新病院の建設計画は、現在一時的に様子を見る段階にありますが、近い将来には必ず実現することとなるでしょう。しかしながら近年の医学・医療界の実状は、医師不足、専門医師の偏在、DPCや看護体制7対1への移行、続く医学部定員増員策、増加する4年制看護学部など、多くの問題と変革の真ただ中であり、一方で医学や医療の分野は日進月歩の状況にあります。この中で、どのように舵をとるかということが、愛知医科大学の命運を左右しかねない極めて重要なポイントになると考えています。

この時代背景にあって、優良な医療人の育成についての社会的要求は著しく強いものがあります。学長には、大学をいかに運営して

いくかということはもちろんですが、大切な財産である教職員を疲弊させたり意欲を損なわせたりすることなく、いかに引き上げていくかという重大な責務があります。今年度から産学連携室が稼働しておりますし、一昨年立ち上げた総合医学研究機構の学内の研究活性化策も、研究支援業務と相まって少しずつですが動き始めています。研究意欲のある大学院学生や若手研究者が臨床試験支援部門に集まって闊達な意見交換をしており、今後若手研究者が更に育っていくことでしょう。また、文部科学省の戦略的大学連携支援プログラム等の支援を手始めとして大学間連携の活発化と優れた臨床医の輩出に一層力を注ぎたいと思っています。

大きな課題ではありますが、分子標的新薬開発のための産学連携のコンソーシアムを立ち上げて、愛知医科大学が先導して地域の大学における研究の更なる発展に繋げたいと考えています。

病院においては、打ち出されたアクションプランを含めて、関連病院、第二病院の検討などの経営強化策や、若手医師の育成のための体制整備と教育・研究への反映を打ち出していきたいと考えております。

みなさまのご支援とご協力があれば良い成果が得られると確信しておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



ー原点を見つめ直そうー

医学部長 佐賀 信介

この度、医学部長を拝命いたしました。以前に医学部長を2期務めさせて頂きましたが、今般の大学・医学部の置かれた大変厳しい状況にあっては、以前に増して、この2年間の任期における医学部長の責務の重大さをひしひしと感じております。

今日、医学教育には社会が直面する医師不足に対する対応が求められています。単に医学部の学生定員数を増やすだけでは対応できない問題であり、より質の高い医師を必要な人数だけ育成していくことが医学部の責務です。教育のシステムは、常に見直し、より良いものに変革していくことが大切です。良い臨床医を育てると同時に、医学教育・研究の後継者を育成していくことも大学医学部の存続に欠かせないことであります。本学医学部では平成16年にカリキュラム改革を行い現在に至っていますが、こうした視野から、もう一度、教育システムの見直しをすべき時期に至っていると思います。このためにも、教員、職員の教育に対するモチベーションを更に高めて頂くようお願い申し上げます。

学生諸君には、自分たちに与えられた時間が貴重な有限の財産であることを認識してほしいと思います。学習、課外活動、余暇などそれぞれの時間を濃密なものとし、めりはりの効いた時間の過ごし方に努め、規範に則った学生生活を送ることで学生の本分を全うして頂きたい。

これまで研究環境の機構上の整備が進められてきました。研究の更なる活性化に必要なものとして、人材の確保、特に核となる優秀

な研究者の獲得を図っていくことが大切だと認識しています。そのためにも、基礎研究の面では受け皿の整備を進める必要性を感じています。また、予算面で困難な状況にあっても、教育・研究のインフラの整備を欠かすことは大きな後れをとることに繋がりがかねません。一つひとつの重要性を見極めつつ、必要なものから整備を進めていくよう努力して参る所存です。

リーマン・ショック以来の世界的不況のもと、新病院建設計画の再検討を余儀なくされていますが、大学の命運は大学病院の運営に託されているといっても過言ではありません。現在、病院のアクションプランのもと、病院経営の改善に向けて、御努力を頂いておりますが、大学病院の今後のビジョンや在り方そのものについての検討が必要になっていると思います。医学部との関係においては、医学部教員が病院の医師として勤めて頂くのは、医育機関の病院として必要な形態ではありますが、大学病院の独自性の確保を今後どのように進めていくかを検討する必要があります。このことは大学の方向付けとして極めて重要な事項ではありますが、医学部の臨床系の教授が病院診療の中心になって頂くことは当然であり、これまで以上に大学が必要とする教授の選考を進めていくことが極めて重要であると認識しています。

最後に、このような難局であるからこそ、何事も原点に立ち返って物事を判断して頂くようお願いし、みなさまの御支援をお願い申し上げます。



－社会の要請に対応して成長できる 看護職者の育成をめざして－

看護学部長 八 島 妙 子

平成22年4月から学部創設以来3人目となる学部長をお引き受けすることとなりました。本学部は今年度で11年目を迎えましたが、この間、カリキュラムの改正を始め、大学院看護学研究科（修士課程）の設置と専門看護師（CNS）教育課程の開設、初の附属施設となる看護実践研究センターの設置と認定看護師（CN）教育課程の開設など、学部の充実と発展に向けて多くの歩みがありました。これもひとえに、初代学部長の高橋照子氏と前学部長の土井まつ子教授の確固たる信念と並々ならぬ努力があつてのことと深く感謝いたします。私自身もこれまで教職員が一丸となって取り組んできた種々のプロセスへの参加などを通して大変貴重な体験をさせて頂きました。

本年度は、学部長の交代と教員組織の改編を進めるなかでの出発となりました。また、昨年度の保健師助産師看護師法改正により、保健師教育の修業期間が6か月以上から1年以上へと変更になるとともに、看護実践力を向上させるため看護基礎教育カリキュラムの改正に向けた動きもあります。本学部においても早急に保健師教育及びカリキュラムについての検討が必要となりますが、これまでの蓄積を基に本学部の特徴ある教育・研究・社会貢献を目指していきたいと考えております。

わが国では、少子高齢化や疾病構造の変化、低成長経済への移行、国民の意識や生活・環境の変化などに対応しつつ、医療のあり方についても大きな転換が進んでいます。健康増進・疾病予防のための取り組みが重視されるとともに、救急、産科、小児、外科等の医療

の再建等を重点課題とした診療報酬の改定、在宅医療の推進の方向性も示されています。改革にあたり、国民が求めているのは医療の安心・信頼の確保であり、質の高い医療サービスの提供です。安全で質の高い医療を提供できるチーム医療の中で、看護職者の果たす役割は非常に重要であり、患者や医療スタッフからも期待されています。また同時に、看護師の役割拡大についての議論も始まっています。

看護職に求められる能力・需要が益々増大している現在、資質の高い看護職を養成するために看護教育も大きな転換を求められており、高度な医療技術に対応できるだけでなく、多様な価値観を持つ人々のニーズに合った安全なケアの提供と高い倫理性とが必要とされています。

本学部では、豊かな人間性を涵養し、看護の対象となる人々との信頼関係を築き、ヒューマンケアを提供できる看護専門職を育成するとともに、専門職者として創造的・発展的に実践能力を身につけることを教育理念として教育目標を掲げています。また併せてコアとなる教育内容を精選し、教育目標達成のため卒業時に期待される具体的な看護実践能力を高めています。更に、大学病院看護部との連携や医学部との合同講義の実施等、教育環境としても年々充実してきております。今後とも、社会の要請に対応しつつ、学生たちが伸びる可能性を持った看護専門職者として学部を巣立っていけるよう、教職員一同尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

主な役職者の改選

○ 大 学

【医学情報センター長】



土井まつ子

(基礎看護学Ⅱ・教授)

知的活動の基盤として多様な大学構成員のニーズに応じた学術情報の提供と共に、地域の方々にも利用しやすい医学情報センターを目指します。みなさまに親しんで頂ける図書館づくりに努めます。

(新任，任期：H22.4.1～H24.3.31)

【メディカルクリニック長】



森下 宗彦

(メディカルクリニック・教授(特任))

高度医療リファレンスセンターとして名古屋市近郊の診療所や病院のみならず、他府県からも患者さんの紹介を受けています。より多くの患者さんに良質の高度医療を提供できるように尽力します。御支援をよろしくお願い致します。

(新任，任期：H22.4.1～H24.3.31)

【加齢医科学研究所長】



吉田 真理

(加医科学研究所・教授)

加齢医科学研究所には4,000例をこえる剖検脳・脊髄が蓄積され、本邦有数の「神経疾患病態解明のための神経病理研究・教育センター」としての機能を更に充実できるように努力したいと思います。

(新任，任期：H22.4.1～H24.3.31)

【学際的痛みセンター長】



牛田 享宏

(学際的痛みセンター・教授)

慢性痛の集学的診療システムの確立と運動器の痛みのメカニズムの解明とその治療に関わる研究の推進に努めます。

(新任，任期：H22.4.1～H24.3.31)

○ 医学部

【学 生 部 長】



岡田 忠

(生理学第1講座・教授)

愛知医大の将来を担う学生諸君への支援・サービスの更なる充実に努め、元気なキャンパスづくりを目指します。

(再任，任期：H22.4.1～H24.3.31)

【総合医学研究機構長】



横地 高志

(微生物・免疫学講座・教授)

高度研究機器，核医学，動物実験，臨床試験の各部門，先端医学・医療研究拠点を一元化した機構がより機能的に医学研究を支援できるよう努めたい。

(再任，任期：H22.4.1～H24.3.31)

【先端医学・医療研究拠点】



木全 弘治

(教学監 (先端医学・医療研究拠点担当))

先端医学・医療研究拠点は、本学における研究成果をもとに外部（企業，他大学など）の開発研究の臨床応用化を支援する施設である。この目的に沿った研究の実現と円滑な進行に努力したい。

(再任，任期：H22.4.1～H24.3.31)

【看護実践研究センター長】



夢喜田恵子

(精神看護学・教授)

特定の看護分野における実践者の育成，看護職者の卒後教育・研究支援，地域住民への健康支援活動を通して，地域そして社会が求める看護実践を発展させていきたい。

(新任，任期：H22.4.1～H24.3.31)

理事・評議員の異動

平成22年3月23日（火）に理事会、評議員会が開催され、次のとおり理事・評議員の選任等がなされました。

【理事】

退任 稲福 繁（平成22年3月31日付）

辞任 佐藤啓二，土井まつ子（平成22年3月31日付）

選任 佐賀信介，島田孝一，八島妙子（任期：平成22年4月1日～平成25年1月27日）

【評議員】

退任 稲福 繁（平成22年3月31日付）

辞任 加藤政仁，佐藤啓二，水野榮二，宮口彰久（平成22年3月31日付）

選任 伊藤義昭，島田孝一，鈴木好人（任期：平成22年4月1日～平成25年1月27日）

地域救急医療学寄附講座の設置

平成22年4月1日，本学医学部に『地域救急医療学寄附講座』を設置しました。

概要は次のとおりです。

1 設置目的

地域医療の維持とその向上のため，救急医療の地域における在り方に関する教育・研究を行い，地域救急医療体制の改善及び救命活動の発展に寄与することを目的とする。

2 事業内容

- (1) 地域救急医療体制の抜本的見直し及び新たな体制整備に関する研究を行う。
- (2) 医師及びコメディカルに対する救急医療関連の教育を行う。
- (3) 医学部，看護学部学生に対して地域医療における救急医療に関する総合的な教育を行い，その重要性及び救急医療に対するモチベーションを向上させる。
- (4) 地域医療における救命救急の専門的医師やコメディカル職を養成する。

3 設置期間

平成22年4月1日から平成26年3月31日まで（4年間）

4 寄附講座職員の構成

- ・教授（特任）
井上保介（本院救命救急科・准教授）
- ・助教
青木瑠里（本院救命救急科・助教）
- ・職員（嘱託）

5 寄附者名

愛知県（厚生労働省地域医療再生計画事業に基づく，愛知県による地域医療再生計画事業の一事業）

6 寄附金額

各年度3,000万円（寄附総額12,000万円）

新 入 生 ガ イ ダ ン ス 実 施 ～ 大 学 生 と し て の 第 一 歩 ～

平成22年度入学生を対象としたガイダンスが、医学部、看護学部ともに4月8日（木）及び9日（金）の2日間にわたり実施されました。各新入生からは、入学の喜びの表情が溢れていましたが、ガイダンスが進むにつれて、これから始まる大学生活への真剣なまなざしが見受けられました。

◆ 医学部ガイダンス概要

日	時間	内 容
四月八日（木）	8：50	医学部長あいさつ
	9：00	自己紹介、い～え、他己紹介
		医師を目指す者として必要なものは何か
	10：00	Small Group Working 発表
	13：00	医学部のカリキュラムについて
	13：50	医学部の試験を体験しよう（OSCE・CBT 模擬体験）
	15：20	先輩からのメッセージ
	16：30	授業、試験等に関する説明 学生生活に関する説明
四月九日（金）	9：00	講義「医学生として習得しておくべき救急蘇生法」 実習「君も今日からERの一員だ!!」
	12：00	集合写真撮影
	13：00	キャンパスハラスメント講習会
	14：00	学生相談室の紹介
	14：20	学生としてのセミナー
	15：05	健康と感染症対策について
	15：20	防犯講習会
	16：20	大学施設の紹介
	16：55	ガイダンスのまとめ
	17：10	課外活動連絡協議会主催のクラブ紹介

◆ 看護学部ガイダンス概要

日	時間	内 容
四月八日 (木)	9:05	看護学部長あいさつ
	9:20	学修オリエンテーションⅠ（学則，履修規程，学習方法等）
	10:15	学修オリエンテーションⅡ
	13:00	学業生活について
	14:00	傷害・賠償保険等の説明
	14:40	事務手続について 各種証明書申込
	16:10	一次救命講習会オリエンテーション
	16:20	新入生研修オリエンテーション
四月九日 (金)	9:00	教員紹介
	9:30	集合写真
	9:40	施設見学
	10:20	アドバイザーとの話し合い
	10:50	実習衣の採寸
	13:00	キャンパスハラスメント講習会
	14:00	学生相談室の紹介
	14:20	学生としてのマナー
	15:05	健康と感染症対策
	15:20	防犯講習会
	16:20	大学施設紹介
	17:10	課外活動連絡協議会主催のクラブ紹介

医学部学外体験実習体験記

愛知県内の心身障害者施設にご協力頂き、2月15日（月）から2月26日（金）にかけて医学部2学年次生が学外体験実習を行いました。障害者の人たちと接する初めての体験は、医学生に大きなインパクトを与えたようです。実習を終えた学生の感想文を紹介します。

多くのことを学んだ実習を終えて

実習施設：身体障害者療護施設 夢の家
2学年次生 佐藤 大樹

私は今回、身体障害者療護施設 夢の家で学外体験実習をやらせて頂いた。

午前中は重度の脳性麻痺の方とのコミュニケーション、ご飯の援助、トイレの援助を手伝った。重度の脳性麻痺の方は言葉をしゃべることができないため、コミュニケーションは難しい。目を見てしゃべって、目で会話しなければならない。言葉はしゃべれなくても、ただ言葉に表せないだけできつとなにか考えていることはあるはずである。それは言葉ではなくても目で感じとれると思う。たとえば目を見て感じたことがその方の本意ではなかったとしてもそうやって感じようと努力することが重要だと思った。

午後は、午前の方よりも軽い症状で、言葉をしゃべることができる方々と一緒にデパートに外出した。様々な話しをすることができた。ある人は、自分の病気のこと、家族のこと、仕事のことを話してくださった。その人は、5人家族だそうで、8年ほど前に病気になったそうだ。半身麻痺のため単語はなんとかしゃべることができるが、文にはならない。「8年。早い。つまらない。」ためいきを吐きながら、そう話してくれた。病気になるまでは全くの健康であったのに、病気になったその日から生活は一変してしまう。自分の思っていることがうまくしゃべれなくなり、自分の仕事ができなくなる。生の声を聞いて、きっとすごくもどかしいのだと思った。しかし、「生きていてよかった。」と言って、携帯電話の家族の画像を見せてくれた。病気になったとき家族が一番の支えになったそうだ。その方と話をしていて、療護施設でどれだけ楽しんでもらうことができるか、心のケアも必要であると感じた。

もう一人の方は、糖尿病で車椅子の生活を

されている方で、その人はこんなことをおっしゃった。「一度、車椅子に乗って旅行してみなさい。そうすれば車椅子に乗っている人がどう感じているかわかるから。僕も車椅子に乗って初めてわかったけどカーペット1枚でつまずくんだから。」現状では障害者に対して様々なバリアがあるとされている。段差や障害物によって車椅子の通行を妨げる物理的バリア、障害者に対して法律が不利に働くことがある制度的バリア、障害者だからといって差別的な態度をとる心理的バリアなどがある。バリアフリーという言葉はよく耳にするが、いまだに多くのバリアが存在していて、障害者の方は大変な思いをされているのだと思った。バリアフリーといっても完全にバリアをなくすことはできないが、少しずつなくしていけるバリアは我々一人ひとりが意識し、そして努力してなくしていかなければならないと感じた。

また、夢の家の職員の方に話しを伺うことができた。その中でおっしゃっていたのは、夢の家のような身体障害者療護施設では、常勤の医師や看護師がいないため、泊まりで施設にいる障害者の方に夜中には必要な医療行為ができない、という問題があるようである。医師不足といわれている現在ではどうしても病院の医師に目がいきがちであるが、医療行為が必要とされている介護施設などでも医師不足に陥っているのだということがわかった。

実習を通して、医療福祉について考えさせられるとともに、医師になるうえで患者さんとの接し方に繋がるものを得ることができたと思う。これから更に勉強して腕のいい医者になろうという思いにさせてくれる実習だった。

医学部平成21年度成績優秀者表彰

本学医学部では、成績優秀者に対し、学納金（授業料）を減免しており、また本人の学習意欲の高揚を更に図るため、顕彰制度を設け表彰しています。

平成22年4月26日（月）午後0時15分から平成21年度の成績が優秀であった医学部学生25名に対して、石川直久学長から表彰状及び記念品が授与され、一人ひとりに称揚と更なる期待の言葉をかけられました。



石川学長、岡田学生部長とともに記念撮影

看護学部学術国際交流を推進

看護学部では、平成22年2月12日（金）から2月18日（木）の日程で、学術国際交流提携校のケース・ウェスタン・リザーブ大学（米国オハイオ州）から、Christopher Manacci 氏（大学院急性期ケア・ナースプラクティショナーコース、フライトナーシング専攻主任）を招聘し、本学部教員等を対象として同大学院における高度実践看護師（ANP）教育に関する講演会及びNP導入等に関する国際交流会議などを開催するとともに、看護実践研究センター主催の救急看護セミナーでも特別に講演して頂きました。なお、今回は同行者として、同大学院急性期ケア・ナースプラクティショナーコース講師の



オウル大学招聘者との話し合い

（右側中央：Arja Liisa Isola 氏
右側手前：Reetta Johanna Saarnio 氏）



ケース・ウェスタン・リザーブ大学招聘者等による表敬訪問

（中央左：Christopher Manacci 氏
中央右：Stephanie Steiner 氏）

Stephanie Steiner 氏も来学され、講演の一部を担当されました。

次いで、平成22年3月11日（木）から3月16日（火）には、同じく提携校であるフィンランドのオウル大学から、Arja Liisa Isola氏（医学部看護健康管理学科教授）及びReetta Johanna Saarnio氏（同講師）を招聘し、本年6月をもって期間満了となる大学間の国際交流協定継続に関する話し合いや、フィンランドにおける認知症老人のケアに関する講演会などを開催しました。

今回の両大学関係者の招聘は、本学部にとって大変実りあるものとなったばかりか、今後の活動に向けた交流と親睦を一層深めることができました。

交通安全講習会開催

平成22年4月16日（金）午後4時30分から大学本館たちばなホールにおいて、愛知警察署交通課総務係の鬼頭文裕氏を講師に迎え、医学部・看護学部を学生を対象とした交通安全講習会を開催しました。

講演は、最初に「思いやり運転のすすめ」のDVDが上映され、思いやり運転の大切さが事故を未然に防ぐ一番の方法であることが認識させられた内容でした。その後講演では、整備されていない裏道路で事故が多発していること、シートベルトの着用、スピードの出

し過ぎ、飲酒運転等最低限守らなければならないことを強調された内容でした。また、愛知県の死亡事故が全国ワースト1位であること、交通事故を起こすと必ず民事・行政・司法のペナルティがあることの説明がありました。改めて交通規則を守ることが一番の安全運転であることが認識させられ、参加した学生にとっても大変有意義な内容でありました。

この講習会を通じ、今後も交通安全に対する意識の高揚を図りつつ常に交通安全に努めてくれることを期待します。

平成21年度実験動物慰霊祭举行

平成21年度医学部実験動物慰霊祭が、平成22年3月17日（水）午後1時30分から実験動物供養塔前において厳かに執り行われ、医学の教育・研究の発展のための礎となった諸動物の冥福を祈りました。

慰霊祭では、初めに本学の医学研究のために貢献した動物の諸霊に対し参加者全員で黙祷を捧げられました。引き続いて、石川直久医学部長から、瞑目した諸動物に対して、その尊い献身に感謝するとともに慰霊の辞として、医学研究の発展のため尊い犠牲となった動物たちの霊に哀悼の意を表し、今後とも動物愛護の精神に基づき、更に実験動物の愛護に努めることを誓いました。

その後、横地高志総合医学研究機構長、山



石川医学部長による慰霊の辞

田史郎動物実験センター長、奥村直正動物実験センター管理長に続いて、日頃動物実験や飼育に携わっている教職員や学生一人ひとりから白いカーネーションの花が献花台に捧げられ、諸動物の冥福を祈りました。

平成22年度看護学部新入生研修実施

看護学部では、平成22年4月22日（木）・23日（金）の2日間、自然豊かな知多半島北部の丘陵地帯に位置する「あいち健康プラザ」において、大学における学習方法の初歩や、大学生活を送る上で必要な知識・技術について、講話や在学生との交流を通して理解し身に付けることを目的とした新入生研修を実施しました。

新入生は、衣斐達教務学生部長を始めとする本学部教員から、今回のテーマに沿った講話を熱心に聞き、在学生とのディスカッションなどに積極的に参加しました。

また、防犯講習会では、愛知警察署員の協力を得て、防犯に役立つ知識の講習や初歩的な護身術の実演及び実技指導をして頂きました。更に今回は、昨年の医大祭で好評だった医療関係の施設や学校を中心に活動されているシンガーソングライターの「より子」さ



在学生とのディスカッション

んをお招きして講演して頂き、幼少期の闘病生活や成人となつてからの大病から学んだ体験談が、心に響く歌声とともに新入生たちに伝えられました。

初めは、新入生たちも緊張の面持ちで研修に臨んでいましたが、研修が進むにつれお互いに打ち解け合い、時には笑顔が溢れるなど、これから4年間の大学生活を送る上で非常に有意義な研修になったと思われます。

看護学部一次救命処置講習会実施

看護学部では、新入生に対して生死にかかわる重篤な患者を救命するために行われる一次救命処置（basic life support）の意味や手順を理解し、その技術を習得するための一次救命処置講習会を平成22年4月14日（水）に実施しました。

当日は、かつて「愛・地球博」の会場で一次救命処置を受け、一命をとりとめられた経験を持つ、牛田尊氏から貴重な体験談をお話し頂き、学生たちは一次救命処置の大切さを痛感させられた様子でした。

その後、会場を体育館に移し、AEDを使用した一次救命処置の演習が行われました。演習は、本学部教員に加え、大学病院の高度救命救急センター及び救急外来のスタッフ、長久手町消防署の救急救命士や長久手町応急救護ボランティアの方々にも協力して頂きつつ行われました。

学生たちは、運動量の多さに驚きながらも、息を弾ませ、汗を流しながら真剣な表情で最



本番さながらの演習

後まで演習をやり遂げました。今回の講習会を契機に、新入生一同、これから学んでいく看護学の勉学に一層力を注ぎ、高度な知識・技術を兼ね備えた看護職者を目指してくれるものと期待しています。

なお、講習会終了後には、長久手町消防本部から、受講した新入生全員に「普通救命講習修了証」が交付されました。参加した新入生にとっては、小さな自信と良い思い出になったようです。

定年退職教授最終講義

今年3月で定年を迎えられた小松徹教授（麻醉科学講座）、橋詰良夫教授（加齢医科学研究所）及び松本義也教授（皮膚科学講座）による最終講義が、大学本館たちばなホールにおいて行われました。

長年にわたり本学の医学・看護教育等に対しご尽力くださいました先生方の講義には、学内外から多数の方が聴講に訪れました。

3名の先生方におかれましては、本学にご着任以来、本学の発展に多大なる貢献をして頂きました。ここに各先生の最終講義内容についてご紹介いたします。

小松 徹 教授 2月19日（金）

【生体を侵襲から守る：安全な麻酔から 人類愛指向麻酔への歩み】

小松先生は、昭和51年から附属病院麻醉科に勤務された後、名古屋大学医学部麻醉学講座を経て、平成11年4月に麻酔・救急医学講座の助教授として着任され、平成12年5月に麻醉科学講座の教授に就任されました。

先生は、医学部学生に対する麻酔科学の講義・実習、臨床教育に、また、大学院学生への研究指導や卒後教育に尽力されました。

また、本学にとって最も重要な達成目標の一つであるとの視点から、効率的な手術室運営に取り組まれ、病院運営に多大な貢献をされました。手術は断らない、すべて受けるという姿勢で臨まれ、着任当時、年間2,500件だった麻醉科管理手術件数は、平成20年度には4,300件にまで増加し、先生の果たされた役割の大きさが数値に残されています。

平成14年には初代の学際的痛みセンター長に就かれ、痛みの治療に力を注がれました。

ニューヨーク医科大学時代に完成された麻酔患者の心拍変動解析システムは、世界で初めての麻酔患者における臨床報告として認められ、一連の研究結果は米国麻酔科学会等で注目されています。また、先生が初めて日本



に紹介された「超音波ガイド下神経ブロック」は、学内はもとより全国の麻酔科医に教育されてこられ、高く評価されています。

最終講義は、先生の故郷、長野県佐久地方の紹介から始まりました。麻酔を35年やってきてよかった、世界中で最も麻酔を楽しんでいる麻酔科医だと思っている。麻酔は、調節の技術、科学となる技術だという教えから始まり、侵襲制御をずっと考えた麻酔をしている。21世紀の麻酔は非侵襲的麻酔が主役になるであろうと思っていると話されました。

最後に、今まで交流のあった先生方、教職員の方々に感謝しているとの言葉で締めくくられました。

橋詰良夫 教授 2月26日（金）

【神経病理学の歴史と発展，38年をふりかえって】

橋詰先生は，平成5年5月に加齢医科学研究所の教授として着任，同時に加齢医科学研究所長に就任され，同研究所の発展に多大な功績を残されました。中でも，この地域の臨床神経学・病理学に携わる研究者との連繫を深め，加齢医科学研究所を本邦有数の神経病理学の教育・研究センターに位置づけされたことは先生の大きな功績の一つです。

医学部学生，大学院学生教育に，また，卒後教育に尽力されました。講義は，ご自身の経験を用いて，臨床との関連を重視され，肉眼所見・病理組織所見を画像で提示されるなどして，分かり易い講義をしてられました。

「神経変性疾患の神経病理学，その病態解明を目指して」ほかを研究テーマとされ，臨床神経学を基盤に，病理解剖を大切に研究されました。多数の共同研究者と連繫を緊密にして研究されてこられたことは，最終講義に学外から多くの方が来られたことで，その一端をうかがうことができました。

先生は，日本神経病理学会理事長としてア



ジア神経病理学会の設立，第1回アジア神経病理学会の開催に尽力されたほか，多数の学会の理事，評議員等に就かれ活動されました。

最終講義は，先生の4歳の時の写真披露で始まり生い立ちが紹介されました。神経病理を始めようかなと思ったのが38年前，病理解剖を主体に臨床の先生と一緒に研究してきた。また，教室運営は仲良くやる，和を大事にしてやってきたとのお話がありました。

最後に，交流のあった施設，先生方，技術員の方々の紹介とお礼，仕事中毒症の自分を支え耐えてくれた家族に感謝しているという言葉があり，加齢医科学研究所の益々の発展を祈念されて講義を締めくくられました。

松本義也 教授 2月17日（水）

【皮膚疾患と光線力学的療法（PDT）】

松本先生は，平成11年8月に皮膚科学講座の教授に就任され，以来11年間にわたり医学部学生，大学院学生に対する研究指導をはじめ卒後教育にも力を注がれました。

平成15年4月から6年間は，情報処理センター長の職に就かれ，本学の情報処理改革の推進的役割を担うセンターにされました。その成果は教育面，研究面，管理運営面等，大学全般に具現化されています。

平成19年1月から3年間は本学の評議員となられ，大学運営にも関わられました。

研究活動面においては，最終講義のテーマとされた「皮膚疾患における光線力学的療法（Photodynamic Therapy：PDT）の基礎的及び臨床的研究」を主として，多くの研究業績を挙げられています。光線力学的療法の研究は，PDTのプロトコルを作り，皮膚疾患に対するPDTのガイドライン作成を目指したもので，その完成も間近いものとなっています。

最終講義は，この10年間愛知医科大学でやってこられたことの，先生方，コメディカル，



看護師さんたちへのお礼の言葉から始まりました。

光線力学的療法は，最近では「PDT」単独で通用するようになり，この10年の変わり方に感嘆していると話され，PDTの作用機序や歴史，多様な療法や成績，その応用を紹介され，今後，皮膚美容など，多くの治療が望めるとPDTの展望を話されました。

皮膚科学講座教授選時のプレゼンテーションの時に受け取られた交通費の500円玉を今でも袋に入れて大事に取ってあることなど，本学との縁の始まりを思い出深く話され，最後に，愛知医科大学のこれからの益々の発展を祈念されて講義を締めくくられました。

退職を迎えて “長年の勤務お疲れ様でした”

長年に亘り本学に勤務され、本年3月31日をもって定年退職又は期間満了退職された方々をご紹介します。

なお、定年退職後も再雇用等により本学にご尽力頂ける方もみえますので、引き続きのご活躍をご期待いたします。

退職に当たり、一言メッセージを頂きました。(五十音順)



小松 徹 先生
(麻醉科学講座・教授)

退職と愛知医科大学への感謝

1976年8月に社会保険中京病院で研修を終えた後に、愛知医科大学附属病院麻醉科助教となりました。稲本晃教授、佐美好昭教授の下で麻醉科医として成長しました。そして、1979年には佐美好昭教授、野口宏助教授とともに集中治療室の開設に参加し、素晴らしい経験を得ることができました。その後、米国留学、名古屋大学麻醉科を経て、再び1999年4月より愛知医科大学に再び戻ってきました。翌年、麻醉科学教授を拝命し、約10年間手術

室での麻醉とペインクリニックに従事してきました。その間、最初は年間約2,500件の麻醉件数が、2009年には約4,500件の麻醉件数となりました。これは、手術室、各科の努力と協力により成されました。

2004年には熊澤孝朗先生の指導の下に学際的痛みセンターを開設できました。この学際的痛みセンターは、全国で初めての新しい痛みの治療と研究を目指した施設です。このように、手術室の充実に加えて、集中治療室の開設、学際的痛みセンターの開設に関与できたことを誇りに思うとともに、愛知医科大学が常に、未来に向かって新たな道を切り開く遺伝子を持っていたためと確信をしています。このような愛知医科大学で働けたことを全ての愛知医科大学の関係者に感謝いたします。



橋詰 良夫 先生
(加齢医科学研究所・教授)

退職にあたり

戦後の混乱と物資の欠乏の時代に両親の計り知れない愛情により育てられ、つつが無く定年を迎えることができました。

永年に亘りご指導、ご支援を受けたみなさまに感謝の気持ちで一杯です。

医学部卒業後臨床神経内科学を研鑽し、その中で自分自身で剖検脳を検索したいという希望から病理学教室に移籍し、38年間ひたす

ら神経病理学の教育・研究・神経病理診断の業務に従事することができたことは大変幸せでした。東海地方の多くの病院の臨床の先生、病理の先生の御協力のおかげで4,000例を超えるbrain cuttingをさせて頂き、多くの貴重な神経疾患の病理所見を学ぶことができました。愛知医科大学加齢医科学研究所神経病理部門が日本でも有数の神経病理教育・研究センターとして発展することができたのはみなさまのご支援のおかげです。

今後は初心に戻り高齢者の医学・医療に取り組むつもりでおります。愛知医科大学と加齢医科学研究所の益々の発展を期待しております。



松本 義也 先生
(皮膚科学講座・教授)

退職のごあいさつ

ありがとうございました。

平成11年8月に愛知医科大学皮膚科に勤務いたしましてから早くも10年半がすぎました。

この間、理事長、学長、病院長の先生を始め、愛知医科大学のみなさまに多大なご支援を頂きまして誠にありがとうございました。無事に終えることができますことに厚く御礼

申し上げます。

情報処理センター長、中央材料部委員長、薬剤部委員長などの多くの会を通じて本当にお世話になりました。誠にありがとうございました。

臨床・研究にて皮膚疾患に対する光線力学的療法（PDT）を行っていくことができましたのもみなさまのご支援のおかげと感謝申し上げます。

退職後もメディカルクリニックと本院にて外来のお手伝いをさせて頂き、愛知医科大学に少しでもお役に立てましたら幸いです。愛知医科大学の、今後益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



普天間新生 先生
(メディカルクリニック・教授(特任))

愛知医科大学で定年を向えられたことは、私にとって望外の幸せです。二十数年、大過なくやってこれたのも職員一同の支援あつてのものです。心より感謝申し上げます。



伊藤 朝雄 さん
(中央臨床検査部・副技師長)

現病院の設立とともに36年間、多くの先輩、後輩にお世話になりました。わが身の老朽化を振り返ったとき、病院も高齢化していました。患者さんや職員に優しい新病院の誕生を心待ちにしています。長い間ありがとうございました。



伊吹 隆雄 さん
(中央放射線部・主任)

昭和50年に奉職以来、35年の永きに亘り、大過なく勤めることができましたことは、みなさまのご支援、ご協力の賜物と大変感謝しております。愛知医科大学の更なる発展を祈念します。



内藤美登里 さん
(医事課・専門職員)

多くの方々に支えられ無事定年を迎えることができました。みなさまの協力があつたからと感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



星場 達夫 さん
(施設セキュリティー管理室・副主任)

30歳からの再就職でした。多くの方に支えられ無事定年を迎えることができました。お世話になりました。

◆◆◆ 感染予防に関する講演会開催 ◆◆◆

平成22年2月16日（火）午後5時30分から、院内感染対策講演会が大学本館たちばなホールにおいて開催されました。

岐阜大学医学部から村上啓雄先生を講師としてお迎えし、「他職種チーム医療による横断的患者診療支援」と題して、院内のみならず院外の医療従事者を含め、総勢226名の参加者を集めて行われました。

岐阜大学では、2003年4月に医学部附属病院生体支援センターが設置され、他職種チー

ム（NST/ICT/PUT/RST/VC）による患者への診療を行っており、多くの実績をあげています。

本院とは違った患者診療システムを紹介して頂き、参加者は大変勉強になったことと思われます。

この講演会は年2回実施しており、厚生労働省からも多くの職員の参加を義務付けられていますので、今後も極力参加して頂きますようお願いします。

医 療 安 全 講 演 会 開 催

平成22年3月11日（木）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、医療安全講演会が開催されました。

今回で23回目となる講演会は、主に医療安全管理室の医師による院内研修形式での開催となりました。野浪敏明室長の進行のもと、次の演題が講演され、活発な質疑応答が行われました。

今回の受講者数も420名を超え、身近な話題での関心の高さを示す結果となりました。医療安全管理室では、すべての職員に医療安全の意識高揚が図れるよう、今後もより実践的な研修会を開催していくこととしています。

なお、当日受講できなかった職員に対して、当日の様子の録画ビデオ（DVD）の貸出しを行っておりますので、ご希望の方は医療安全管理室（内線2009）までお問い合わせください。

【講演内容】

- 1 「急変時の対応－まずA（気道）、B（呼吸）から－」

中川隆副室長

- 2 「深部静脈血栓症・肺塞栓症対策マニュアル」

DVT小委員会 石橋宏之委員長

- 3 「胸腔ドレーン挿入の基本手技」

胸腔ドレーンワーキング 杉本郁夫委員長

- 4 「中心静脈カテーテル穿刺挿入手技に関する安全管理指針」

CVカテーテルワーキング 福田元敬委員長

通算100回目のドクターヘリ症例検討会開催

平成14年1月から運航開始となった愛知県ドクターヘリは、丸8年を経過し、毎月ドクターヘリ症例検討会が開催されています。平成22年4月24日（土）の開催で100回目の節目を迎え、今回は過去の参加者数をはるかに凌ぐ160余名の参加がありました。

第100回を記念して、岐阜県立多治見病院救命救急センター長の間瀬則文先生を講師にお迎えして、県立多治見病院で実践されている医師自らが運転して救急現場に出動するドクターカー方式（DMERC）の実際について、

情熱的な講演をして頂きました。その後、会場を本館1Fレストランオレンジに移して意見交換会が開催され、参加者相互が活発な情報交換と親交を深めることができました。

今回の検討会及び意見交換会を終えて、ドクターヘリスタッフを始め参加者一同は、今後もドクターヘリの安全運航を第一に、更に本院のドクターカー運用も視野に入れ、積極的に救急現場へ出向く救命救急活動の必要性を改めて確認しました。

第2回保険診療に関する講習会開催

臨床研修病院においては、全職員を対象とした保険診療に関する講習が、年2回以上実施されていることが必須とされており、平成21年度第2回目講習会が、平成22年3月12日（金）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、(株)スズケンの岡山幸司氏（カスタマーサポート部コンサルティング課統轄課長）を講師にお迎えし、「平成22年度診療報酬改定の概要について」と題して開催されました。

講習会の中で今回の改定が10年ぶりのネットプラス改定であり、重点課題となっている救急、産科、小児、外科等の医療の再建、病院勤務医の負担軽減に重きが置かれた改定で

あること、充実が求められる領域（がん医療、認知症医療、感染症対策、肝炎対策の推進等）の評価、患者から見てわかりやすい医療の実現（明細書の無料発行等）のための評価、DPC制度における診断群分類の見直しの概要、調整係数及び新機能評価係数の設定等について改定内容について分かり易く解説・説明して頂きました。

講演会には、医師、臨床研修医、コメディカル及び事務職員など幅広い職種から170名の参加を得、経営改善に向けて医療収入の増収・増益が求められる中、医療収入に多大な影響を及ぼす診療報酬改定に対する職員の関心の高さを窺い知ることができました。

卒後臨床研修修了証授与式挙行

卒後臨床研修修了証授与式が、平成22年3月15日（月）午後6時から大学本館701会議室において挙行されました。式は、稲福繁学長を始め石川直久医学部長、伊藤隆之病院長、高本滋卒後臨床研修センター長、福沢嘉孝医学教育センター長等が出席の中、整然と且つ厳かに執り行われました。

始めに高本センター長から「二年間の愛知医大での研修、大変ご苦労さまでした。これからみなさんは医師として専門の道に進むこととなりますが、これまでの研修医としての二年間の経験を基に、自信を持って各々の将来を開拓してってください。これから先の道はみなさんの努力次第です。明るく洋々とした未来が広がるよう祈っています。」と告辞があり、各出席者からの祝辞の後、高本センター長から平成20年4月1日に臨床研修を



出席者による記念撮影

開始した研修医14名の一人ひとりに臨床研修修了証が手渡されました。

修了者14名のうち11名は本院の専修医として、専門医、認定医や学位取得を目指すことになります。本院での臨床研修医として習得した知識、技術及び経験を生かし、各々がより一層の社会貢献をされることが期待されます。

新規採用医師ガイダンス開催

新規採用医師ガイダンスが、4月1日（木）午前9時から終日にわたり開催されました。対象者は4月1日付けで新たに本院に採用となった医師、帰局医師、臨床研修医からの採用医師及び新たに採用された臨床研修医計72名で、全員が受講しました。

新規採用医師ガイダンスは一昨年から開催されていますが、出席できない医師が多く、厚生労働省の強い指導により、昨年から短時間の医療安全研修の受講を条件に、PHS及びIDの授与する形式を始めました。しかし、病院全体の基本的なルールを習得するには、最低でも1日の研修時間が必要なことから、今年度からプログラムを変更し充実させたもの

です。

今回の開催にあたっては、受講を徹底するため、準備段階から診療科部長を通じて働きかけを行ってきました。ガイダンスでは、伊藤隆之病院長による辞令交付と病院の経営方針の解説に始まり、野浪敏明副院長による「当院の役割」の説明と続き、主要部署の業務内容、救急医療体制、医療安全管理、感染予防対策、診療の流れなど各部門の担当者により精力的に行われました。参加した医師は、凝縮された内容にさすがに疲れた表情でしたが、受講内容がこれからの業務に活かされるものと期待されます。

臨床研修医ガイダンス開催

平成22年4月1日（木）から9日（金）まで、新人の臨床研修医37名を対象に、本院における臨床研修に必要な基本的な事項についての「臨床研修医ガイダンス」が開催されました。

最初に、伊藤隆之病院長から医師としての心構えについての講義があり、続いて医療安全管理室が主催する新規採用医師を対象にしたガイダンスに参加し、8日間のガイダンスがスタートしました。

2日目以降は卒後臨床研修センター専任教員の今村明准教授による「研修医他己紹介」と題するグループワーク（GW）、AMUSEの操作方法、輸液ポンプ・シリンジポンプ等の実習、看護師の役割や業務を通してチーム医療の中での医師の役割を理解する病棟看護研修、BLS（一次救命処置）及び気道管理研修、手洗いの正しい方法やマスクなどの個人防衛具の使い方などの感染予防研修、更に外来研修に出る前に採血実習、縫合実習が行われました。



真剣な眼差しで取り組む研修医

また、（株）SRL営業人材開発チーム主任研究員の浅田均氏による「接遇の基本と実践」と題するGWによる「笑顔、傾聴、共感」についての研修も行われました。

最後に、高本滋センター長から臨床研修医一人ひとりに臨床研修許可証が手渡され、8日間のガイダンスが終了しました。このガイダンスの内容が、参加した臨床研修医にとって、将来必ず役立つものになることと期待されます。

平成21年度外国人研究者懇談会開催

医学部学術国際交流委員会主催の外国人研究者懇談会が、平成22年2月22日（月）午後6時から、大学本館1階レストラン「オレンジ」において開催されました。

この懇談会は、本学に籍を置く外国人研究者同士及び関係教職員との親睦を深めることを目的に毎年開催しているものです。

当日は、外国人研究者16名及び学内関係者12名の総勢28名が会場に集い、和やかな雰囲気の中での懇談会となりました。

懇談会は、池田洋医学部学術国際交流委員会委員長のあいさつで始まり、研究指導教授などを囲んでの歓談や外国人研究者の方々の自己紹介などが行われました。自己紹介では、本学での研究活動の抱負やこれからの決意などを、時折日本語をおり交ぜながら語られま



したが、なかには流暢な日本語で会話する研究者もあり、会場を沸かしていました。異なる講座等の外国人研究者同士が顔を会わせる機会は少ないようですが、この懇談会で母国の話題などで楽しいひとときを過ごされました。また、担当指導教授のみに限らず他講座の教授からも激励の言葉を頂いたりと出席者同士大いに親睦が深まったようです。

篤志献体者に 文部科学大臣から感謝状贈呈

本学の解剖学教育のために献体頂いた次の方々に対し、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。

鈴木 豊子 殿	山本 和男 殿	岡山 節子 殿	吉田 文夫 殿	鳥居ゆき子 殿
杉浦 一信 殿	馬淵 金雄 殿	小島 大祿 殿	北岡やゑ江 殿	清水 昭二 殿
名取 愛子 殿	大柳 武朗 殿	安達東一郎 殿	西尾 一 殿	金子 忠男 殿
川崎てる子 殿	吉村 久幸 殿	岩田 裕伊 殿	加藤 廣見 殿	林 正 殿
松本ナツ子 殿	湯浅三千子 殿	多田 進洸 殿	石田 重信 殿	金井美智子 殿
加藤 郁子 殿	佐藤 正子 殿	園田 尊雄 殿	水谷 俊雄 殿	服部 芳春 殿
梶塚 文 殿	中神 碩子 殿	村田多美子 殿	川本 時男 殿	小林 清 殿
浅見 進 殿	西野 夏子 殿	金井 良枝 殿	藤田 つや 殿	水谷 悟 殿
翁 彦貞 殿	田中 正敏 殿	小林 澄二 殿	鈴木 穂積 殿	

加齢医科学研究所

平成21年度セミナー・研究発表会開催

平成22年2月27日（土）に加齢医科学研究所の神経病理部門の研究発表会が行われ、筋萎縮性側索硬化症、認知症、パーキンソン病、脊髄外傷の実験モデル、脊髄梗塞、プリオン病、遺伝性脊髄小脳変性症など多彩なテーマについて、学内外の研究者8名から最新の研究成果の発表と活発な討論が行われ、今後の神経病理部門の研究活動に大きな刺激となりました。

続いて3月16日（火）には、加齢医科学研究所を構成する10部門の部門員の年に一度の研究発表会が開催されました。今年度は、生理機能部門、代謝動態部門、循環器病態部門、感覚器病態部門、精神・神経病態部門、神経病理部門の6部門から8名の研究者による研究成果の発表があり、特別講演を「てんかん診療の基本と高齢発症のてんかんの問題点」と題して、本学精神科学講座の兼本浩祐教授にお願いしました。

兼本教授の講演は、最近のてんかんの病態

に基づく診断と分類、治療薬の選択、新薬の効果、予後などに関して最新の情報をわかりやすく解説して頂き日常臨床に役だつご講演であると好評でした。

3月19日（金）には「中国における神経病理の歴史と発展、今後の課題」と題して、中国復旦（フータン）大学附属華山病院神経病学研究所神経病理室准教授の汪寅先生による特別講演がありました。汪先生は、1993年に初来日され、平成22年3月に退官された加齢医科学研究所の橋詰良夫名誉教授の指導の下、大学院研究生として神経病理学の研究に励み学位を取得されました。1999年に上海に帰国後、復旦大学附属華山病院神経病学研究所に勤務して中国神経病理学組の理事として活躍されており、中国神経病理学会のホープとして注目を集めています。汪先生の活躍と講演は、われわれ日本の研究者にとっても大変刺激となりました。

平成22年度職員新任式挙行

平成22年度職員新任式は、4月1日（木）大学本館303講義室において行われました。

式では、三宅養三理事長から新任職員に対し、「私は、平成22年1月28日付で理事長に就任いたしました。私の使命は、一日も早く新病院建設に着手できるよう財政基盤を固めることに考えています。その為にはみなさまのご協力無くしては成しえません。全職員で一丸となって愛知医科大学の永続的発展を目指していきたい。」とあいさつがありました。

なお、今年度の新規職員は191名で、内訳



新任職員代表者による宣誓

は教員38名、事務18名、技術1名、医療15名、看護119名です。



献血ご協力ありがとうございました

平成22年3月12日（金）大学本館1階ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め病院を訪れる見舞客など多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

次回は、平成22年7月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願いします。

冬の団体献血

・ 献血受付数	・ 23名
・ 献血できた方	・ 17名 (400ml・11名)
・ 献血できなかった方	・ 6名

ご支援に感謝します

次の方々からご寄附を賜りました。厚く御礼申し上げます。(H22. 2. 1～H22. 4. 30)

◎ 教育研究事業寄付金のご寄附

◆ 在学生御父兄 50万円：3名

◆ 一般寄附

50万円：1件
10万円：1名

学 術 振 興 学 位 授 与

◆大学院医学研究科



石田奈津子

学位授与番号 甲第337号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Etretinate enhances the susceptibility of human skin squamous cell carcinoma cells to 5-aminolaevulinic acid-based photodynamic therapy (エトレチナートはヒト皮膚有棘細胞癌細胞株に対するALA-PDTの効果を増強する)」



中野 章希

学位授与番号 甲第340号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「A pilot study to assess the efficacy of photodynamic therapy for Japanese patients with actinic keratosis in relation to lesion size and histological severity (病変の拡がり組織学的重症度で分類した日光角化症に対する日本人のPDTの治療成績の検討)」



小田真喜子

学位授与番号 甲第338号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「ケロイド由来線維芽細胞における炎症性タンパク質とシグナルタンパク質の発現検討」

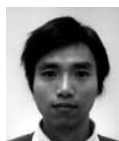


古橋 匡文

学位授与番号 甲第341号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Back rotation of hyoid bone position in non-obese patients with obstructive sleep apnea (非肥満閉塞性睡眠時無呼吸患者における舌骨の後方回転位について)」

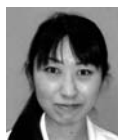


祝 龍

学位授与番号 甲第339号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Equivalent Involvement of Inter- α -trypsin Inhibitor Heavy Chain Isoforms in Forming Covalent Complexes with Hyaluronan (ヒアルロン酸との共有結合複合体形成におけるインターアルファトリプシンインヒビター長鎖サブユニットの関与はイソフォーム間で等価である)」



山下 範子

学位授与番号 甲第342号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Local injection of botulinum toxin A for palmar hyperhidrosis: Usefulness and efficacy in relation to severity (掌蹠多汗症のボツリヌス毒素A局注療法：その有用性および重症度別の有効率の検討)」



米山亜紀子

学位授与番号 甲第343号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Increased expression of SCL-TAL1 Interrupting Locus product in pancreatic intraepithelial neoplasia (膵癌前癌病変におけるSCL-TAL1 Interrupting Locus productの過剰発現)」



Abu Shadat Mohammad Noman

学位授与番号 甲第344号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Thalidomide inhibits epidermal growth factor-induced cell growth in mouse and human monocytic leukemia cells via Ras inactivation (サリドマイドはRas不活性化を介して上皮成長因子によるマウスおよびヒト単球白血病細胞の増殖を抑制する)」

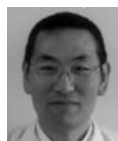


安部 文江

学位授与番号 甲第345号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Involvement of multidrug resistance-associated protein 2 (ABCC2/Mrp2) in biliary excretion of micafungin in rats (ラットにおけるミカファンギンの胆汁排泄における多剤耐性関連蛋白質2 (ABCC2/Mrp2) の関与)」



安 軍

学位授与番号 甲第346号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Effects of 1-O-hexyl-2,3,5-trimethylhydroquinone on carbon tetrachloride-induced hepatic cirrhosis in rats (1-O-hexyl-2,3,5-trimethylhydroquinoneの四塩化炭素によって惹起されるラットの肝硬変に及ぼす影響)」



Dagvadorj Jargalsaikhan

学位授与番号 甲第347号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Tumor necrosis factor- α augments lipopolysaccharide-induced suppressor of cytokine signalling 3 (SOCS-3) protein expression by preventing the degradation (腫瘍壊死因子はリポ多糖体誘導SOCS-3発現をその分解を阻止して亢進する)」



Md. Imtiaz Iftakhar-E-Khuda

学位授与番号 甲第348号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「Astrocyte elevated gene-1 (AEG-1) is induced by lipopolysaccharide as toll-like receptor 4 (TLR4) ligand and regulates TLR4 signalling (Astrocyte elevated gene-1 (AEG-1) は, toll-like receptor (TLR) 4リガンドであるリポ多糖体受容体により誘導され, TLR4シグナルを制御する)」

**完山 秋子**

学位授与番号 甲第349号

学位授与年月日 平成22年 3 月11日

論文題目：「Endothelial function and oxidative stress in women with endometriosis (子宮内膜症患者における酸化ストレスと血管内皮機能)」

**完山 紘平**

学位授与番号 甲第350号

学位授与年月日 平成22年 3 月11日

論文題目：「Role of Hyaluronan Synthase, Hyaluronan and Serum-derived hyaluronan-associated protein (SHAP)-Hyaluronan Complex in Endometrial Cancer (子宮体癌におけるヒアルロン酸合成酵素, ヒアルロン酸, SHAP-HA複合体の役割)」

**黒川 修二**

学位授与番号 甲第351号

学位授与年月日 平成22年 3 月25日

論文題目：「腎尿管上皮細胞のcaspase-3に対する高グルコースの影響と新規生理活性物質naofenの関与について－主としてphosphoinositide 3 kinase (PI3K) を介するcyclooxygenase-2 (COX-2) の活性化との関連について－」

**森 稔高**

学位授与番号 甲第352号

学位授与年月日 平成22年 3 月25日

論文題目：「Adipocytokines and Endothelial Function in Preeclamptic Woman (妊娠高血圧症候群妊婦におけるアディポサイトカインと血管内皮機能)」

**佐藤 祐子**

学位授与番号 乙第321号

学位授与年月日 平成22年 3 月25日

論文題目：「Enhanced expression of naofen in the kidney of streptozotocin-induced diabetic rats - A possible correlation to apoptosis of tubular epithelial cell (ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラット腎におけるnaofenの発現増加-尿管上皮細胞のアポトーシスとの関連の可能性)」

**柴田 康之**

学位授与番号 乙第322号

学位授与年月日 平成22年 3 月25日

論文題目：「解剖用死体による超音波ガイド下星状神経節ブロック法の開発およびその効果と合併症の検討」

**春日井親俊**

学位授与番号 乙第323号

学位授与年月日 平成22年 4 月 8 日

論文題目：「Concanavalin A induces formation of osteoclast-like cells in RAW264.7 mouse macrophage cells (コンカナバリンAはRAW264.7マウスマクロファージ細胞に破骨細胞様細胞形成を誘導する)」

◆大学院看護学研究科



嶋崎 和代

学位授与番号 第28号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「専門学校における看護教員の教育ニーズと教育活動評価の関連性について」



宮良 淳子

学位授与番号 第30号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「血液透析室における看護師の手袋着用状況と手袋着用行動に関連する要因」



水谷 優子

学位授与番号 第29号

学位授与年月日 平成22年 3 月 6 日

論文題目：「光環境の調整による認知症の行動および心理症状（BPSD）の改善効果の検討－日光浴という高照度の光を生活の中に取り入れて－」

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介します。（敬称略）



モ ハ マ ド エルセイド アベデル バリー
Mohamed Elsayed Abdel Bary

国籍：エジプト

現職：アレクサンドリア大学

医学部脳神経外科・助手

受入講座：脳神経外科学講座

研究期間：H22.1.26～H23.1.25（1年）

研究課題：経皮的腰椎椎弓根スクリュー固定術の有効性と安全性について

（Mohamedさんからの一言）Promotion of our patient's health is a tough job! It mandates always looking for the best. Aichi Medical University is one of the best centers of Spine surgery; I am honored to have the opportunity to be a part of this distinguished team.

I found the Neurosurgery department very well equipped and the staff members are very talented and friendly.

I am very grateful that I am studying new techniques in minimally invasive spine surgery with Professor Takayasu, whom I would like to thank very much. I would like also to thank the staff members of Aichi Medical University for their kind hospitality, and for helping me in conducting my studies.



ズルカラナイニ
Zulkarnaini

国籍：インドネシア

現職：Zainoel Abidin General

Hospital 整形外科・医師

受入講座：整形外科科学講座

研究期間：H22.3.1～H22.5.31（3か月）

研究課題：整形外科領域の手術手技の研修（Zulkarnainiさんからの一言）My name is Zulkarnaini, I am Orthopaedic surgeon and worked at a government hospital in Aceh province, is one of the westernmost province of Indonesia. I am very proud to have the opportunity to study in the Aichi Medical University, because here I can meet with expert doctors of the famous and very experienced, especially in the field of Arthroscopy. I also like the environment and the people here are very caring and friendly. I will live and study here for about 3 months, I am very interested in a area of expertise Arthroscopy knee and shoulder joints. Knowledge that I get will be very helpful for me because I will be able to use it to help people who need them in my area.

I would like to express my deep appreciation for Prof. Hiroshi Honjo and his colleagues for the support and guidance.

研究助成等採択者

○財団法人市原国際奨学財団第18回（平成22年度）研究助成

- 氏 名 谷川 徹
(耳鼻咽喉科学講座・准教授)
- 研究題目 ガドリニウム系MR I用造影剤が内耳に及ぼす直接的影響に関する研究－安全で効果的なメニエール病の精密診断を目指して－
- 助成金額 500,000円

○財団法人大幸財団第27回（平成22年度）学会等開催助成

- 氏 名 佐藤啓二
(整形外科学講座・教授)
- 学会名称 第114回中部日本整形外科学会・学術集会
災害外科学会・学術集会
- 助成金額 210,000円

海外研修派遣研修記

本学の教育、研究等の向上に寄与するため、精神神経科の深津尚史講師及び消化器内科の佐藤顕講師が海外研修を行いました。研修者の感想をご紹介します。

深 津 尚 史（精神神経科・講師）

研修課題：ユング派精神分析家の訓練プログラム参加

研 修 先：チューリッヒユング研究所・C.G.Jung Institute Zurich

研修期間：H21.4.1～22.3.31

平成21年4月1日から平成22年3月31日までの一年間、私は、スイスのC.G.Jung Institute Zurich（チューリッヒ・ユング研究所）に留学させて頂きました。チューリッヒは人口約37万人のスイス最大の都市です。チューリッヒ湖から流れる河沿いには、教会や中世の雰囲気が残る旧市街が広がり、天気がいいと湖の向こうにアルプスの山々が見えます。

1948年に設立されたユング研究所は、ユング心理学として知られる分析心理学の研究及び精神分析家の訓練機関です。C.G. ユングは20世紀前半に活躍した精神科医・心理学者であり、統合失調症を提唱したブロイラーや精神分析を創設したフロイトとの交流は伝説となっています。1965年に河合隼雄先生がこの研究所で日本人初の分析家としての資格を取得し、日本にユング心理学を広めました。16世紀の住居を用いた美しい研究所はチューリッヒ湖に面し、庭には四季折々の花が植えられ、夏には湖で泳ぐ学生もいました。

今回の留学の目的は、分析家の訓練過程に参加することであり、自らが被分析者として精神分析を受ける週3回の教育分析が生活の中心でした。ユング心理学とは、私たちの内界で展開する心的イメージの論理を神話学・宗教学・民俗学などの比較文化論の手法を通じて理解する「イメージの精神分析」です。そのため、ユング心理学では、夢を重視して精神分析が進められます。私が分析家として選んだde Moura先生は絵画療法の専門家であ



り、自分の夢を描画することを勧められました。そのため、一年間毎日自分の夢をノートに書きとめ、そのイメージをクレヨンで絵にしました。自分の内面を見つめ、自分の夢を絵にしていく作業を経て、私はこの先の人生を歩んでいく覚悟のようなものを手にしたように感じます。スイスでは幼稚園が義務教育であり、最初はドイツ語に途方にくれていた子供たちも、最後には友達とサッカーをしたり、誕生日会に参加するようになりました。口頭試問で試験官の英語を聞き取れず、苦しい思いをしていた時には、そうした子供たちの姿に救われました。

精神科医にまず求められることは、客観的な脳の論理に従い、患者さんにとって適切な投薬をすることと私は考えます。しかし、時に精神科には人生の意味や目的を求めて受診される方もいます。私は、患者さんの主観的なイメージの論理に従い、彼らと一緒に悩み迷うことも精神科医の仕事の一つであるということはこの留学で再確認したと思います。

佐藤 顕（消化器内科・講師）

研修課題：NASHにおける脳腸相関

研 修 先：カリフォルニア大学

研修期間：H21.4.1～22.3.31

夏休みを使って1か月ほどサンフランシスコ郊外にホームステイした高校生の時以来、英語圏での生活や仕事をすることに興味があった私は、当科教授である米田先生に、ご自身の留学先でもあったUCLAの研究室を紹介頂き、今回の留学は実現しました。

4月1日に家族を伴いLAX空港に降り立ったときには、これから始まる留学生活に期待する半面、不安も大きいものでした。なにしろ日本で8泊ほど予約しておいたホテルに滞在しながら、その短い期間で今後一年間過ごすための住居の決定、車の購入、家具や電化製品などの必需品の買い出しに子供の学校の決定などをしなければなりません。当然のことながら旅行者相手ではない店や役所の人達の容赦のない英語に、最初は四苦八苦でした。しかし生活もなんとか落ち着けば、そこはさすがロサンゼルス、紺碧の青空にまぶしいほどの日差し、街には高級外車が走り回り、ビバリーヒルズやサンタモニカ、マリブといった高級住宅街や、世界のエンターテイメントの中心地ハリウッドへは車で十数分、南に1時間ほど行けばディズニeland、2時間行けばサンディエゴ、東に2時間行けばパームスプリングス、3時間行けばラスベガスという立地のよさで、平日は毎日実験をして、週末はどこかに出かける、という繰り返しで、あっという間に一年が過ぎてしまいました。

私のアメリカでのボスであるPro. Yvette Tacheは、ストレス、という概念を提唱したHans Selyeのお弟子さんにあたり、ラットの



ラボの同僚たちと（中央：本人）

脳内CRFというホルモンを投与することで胃や大腸の運動に変化が起きることを発見した、脳腸相関の第一人者です。そのため研究者が世界中（フランス、ドイツ、中国、アメリカ、韓国、エチオピア、ポーランド、そして日本）から集まっていた、活気にあふれていました。私はそこでProf. Tacheのグラントの一部を受け持ち、ストレス下における腸管の窒素産生を調べるのと平行し、同じくストレス下での肝臓での各種ペプチドの発現を、ラットを用いて調べる、といった仕事をしていました。今後大学でも継続して結果を出していけたらと思っています。

1年と短い期間ではありましたが、家族と海外で生活し、トップレベルの研究室で仕事をしたことは自分自身の誇れる財産となりました。今後何十年経ってもあの時は、と懐かしく思い出すことでしょう。

今回の留学に際し、研修先をお世話して頂いた米田先生、快く送り出してくれた医局の諸先生方、ご配慮頂いた大学の関係者の方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

本学講座等の主催による学会等

【学 会 名】	【開 催 日】	【会長等】
・ 第90回日産婦愛知地方部会学術講演会	1 月23日(土)	若槻 明彦
・ 学際的に痛みを考える会第3回学術集会	2 月27日(土)	牛田 享宏

第90回日産婦愛知地方部会学術講演会

平成22年1月23日(土)に、本学の若槻明彦教授が講演会会長を務め、第90回日産婦愛知地方部会学術講演会が、名古屋市中区の興和紡績(株)本社ビル11階ホールにおいて、午後2時から午後6時迄の日程で行われました。

本学会は年2回、定期的に行われている産婦人科医のみで構成される講演会で、出席者は総数で280名であり、会場は常に満席で立ち見が出る程でした。

内容としては27題の一般演題の応募があり、

悪性腫瘍領域、産科領域、不妊領域、内視鏡手術領域と多岐にわたる内容であり、これらに対して活発な議論が行われました。演題の多くは日常の産婦人科医療に役立つ実践的な症例発表が多く、日々の臨床に極めて役立つ内容が多く発表されていました。参加者からも活発な質問も多く、時間の配分には苦労しましたが、講演会の運営もスムーズで、滞りなく会の運営ができました。また、学会からの援助もあり、託児所も同会場内に設けることができました。

学際的に痛みを考える会第3回学術集会

痛みに対する診断や治療を幅広い視点から進めていく目的で考える事を主旨として開催している研究会が、平成22年2月27日(土)に名古屋国際会議場で行われました

第3回目の開催となった今年度の研究会では、2名の講師から非常に意義深い講演をして頂きました。西原真理先生(本学学際的痛みセンター講師)から、慢性痛患者にしばしば内在し、重要な課題となる精神心理学的問題について診断・分析方法から現在考えられる対応法まで話をして頂きました。患者だけでなく多くの医療者も痛みというものの認識

が疼痛部位の診断と治療という点に傾きがちな中で非常に意義のある講演をして頂きました。また、川口善治先生(富山大学整形外科准教授)から、患者人口も非常に多く、大きな課題で有る変形性脊椎症や脊柱管狭窄症に伴って引き起こされる腰下肢痛についてメカニズムと手術療法、オピオイドも含めた薬物療法などについて講演をして頂きました。

参加者は理学療法士やコメディカルが多くみられましたが、広く痛みを考えていくためには、今後医師にもより多く参加して頂ける会に発展させていきたいと考えています。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

なお、学内者の方は、メールシステム・インフォメーションの「規則広報」に詳細を掲載していますので、ご確認ください。

就業規則等の一部改正

事務組織として法人本部を設置すること、及び労働基準法の改正（平成22年4月1日施行）に対応するため、次の関係規則の一部が改正されました。

施行日はいずれも平成22年4月1日

- ・ 理事会の運営方針
- ・ 学校法人愛知医科大学就業規則
- ・ 学校法人愛知医科大学給与規程

ハラスメントの防止等に関する規程の制定

学校法人愛知医科大学ハラスメントの防止等に関する規程が制定され、職員等からのハラスメント全般に係る相談・通報に対する窓口、手続き等が整備されました。

施行日は平成22年3月1日

大学学則の一部改正等

総合医学研究機構に置く動物実験センター、核医学センター、研究機器センター及び臨床試験センターを同機構の部門とすることに伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成22年4月1日（制定）

- ・ 総合医学研究機構の部門の組織等について（一部改正）
- ・ 愛知医科大学学則
- ・ 愛知医科大学医学部附属総合医学研究機構規程
- ・ 愛知医科大学医学部附属総合医学研究機構研究活性化委員会規程
- ・ 愛知医科大学医学部核医学センター放射線安全委員会規程
- ・ 愛知医科大学医学部核医学センター放射線障害予防規程

- ・ 愛知医科大学医学部核医学センター利用内規
- ・ 愛知医科大学動物実験規程
- ・ 愛知医科大学医学部附属動物実験センターエックス線装置取扱内規
- ・ 愛知医科大学医学部附属動物実験センター利用心得
- ・ 学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・ 管理職の職務の代理に関する要綱
- ・ 管理職手当に関する細則

（廃止）

- ・ 愛知医科大学医学部動物実験センター規程
- ・ 愛知医科大学医学部核医学センター規程
- ・ 愛知医科大学医学部研究機器センター規程
- ・ 愛知医科大学医学部臨床試験センター規程
- ・ 研究機器センター共同利用研究室の配置等について
- ・ 愛知医科大学医学部動物実験センター運営委員会規程
- ・ 愛知医科大学医学部核医学センター運営委員会規程
- ・ 愛知医科大学医学部研究機器センター運営委員会規程
- ・ 愛知医科大学医学部臨床試験センター運営委員会規程

発明取扱規程等の制定

愛知医科大学発明取扱規程及び「発明等に対する補償金について」（理事長裁定）が制定され、職員等が業務上行った発明等に係る手続き、補償等の内容が定められました。

施行日はいずれも平成22年2月15日

医学部履修規程の一部改正

愛知医科大学医学部履修規程の一部が改正され、授業科目等が整備されました。

施行日は平成22年4月1日

臨床研究に関する補償方針の制定

臨床研究に関する倫理指針の改正に伴い、平成22年3月1日付けで「臨床研究に関する補償方針」が医学部長裁定され、医学部における補償方針が定められました。

医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程の一部が改正され、学際的痛みセンター教授就任に伴い、教育・研究上の基本組織が整備されました。

施行日は平成22年3月1日

医学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科履修規程の一部が改正され、学際的痛みセンター教授就任及び旧専攻系学生の在学がなくなることに伴い、授業科目及び履修に係る様式が整備されました。

施行日は平成22年4月1日

看護学部倫理規程の一部改正

愛知医科大学看護学部倫理規程の一部が改正され、研究状況報告に係る手続き、様式等が整備されました。

施行日は平成22年3月1日

看護学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院看護学研究科履修規程の一部が改正され、専門看護師教育課程開講科目に係る履修方法等が整備されました。

施行日は平成22年4月1日

医師業務分担推進委員会要綱の制定

愛知医科大学病院医師業務分担推進委員会要綱が制定され、医師及び看護職員の負担軽減及び処遇改善等について審議・調整する委員会が設置されました。

施行日は平成22年3月1日

特殊撮影室運営要綱の制定

愛知医科大学病院特殊撮影室運営要綱が制定され、救命救急センター特殊撮影室の運営方針、組織等が定められました。

施行日は平成22年3月1日

腎センター運営委員会規程の一部改正

愛知医科大学附属病院腎センター運営委員会規程の一部が改正され、同委員会の業務として、透析機器の安全管理の推進が加えられました。

施行日は平成22年4月1日

医学情報センター利用規程等の一部改正

愛知医科大学医学情報センター（図書館）利用規程及び愛知医科大学医学情報センター（図書館）複写等内規の一部が改正され、医学情報センターの利用資格、貸出条件等が整備されました。

施行日はいずれも平成22年4月1日

構内における車両の規制に関する規程の一部改正等

旧外来駐車場の使用再開に伴い、次の関係規則が整備され、駐車場管理体制、駐車料金等が整備されました。

施行日はいずれも平成22年3月1日（制定）

- ・ 学校法人愛知医科大学第1駐車場（平面駐車場）管理規程（一部改正）
- ・ 愛知医科大学構内における車両の規制に関する規程
- ・ 学校法人愛知医科大学第1駐車場管理規程

情報処理センターだより

モバイルアカデミーでどこでも医療語彙学習

情報処理センター研究開発室長 山森孝彦

◆モバイルアカデミー

情報処理センターの教育用サーバには、医療英語を効果的に学習できるソフトが入っており、学内LANに繋がれたコンピュータを介してどなたでも利用できることを以前紹介しました。それはネットアカデミー2 医学英語<基礎>コース（アルク社）という名前のソフトで、診察室の会話の音声練習を行うリスニングと、医療記事の速読練習を行うリーディングと、基本医療語彙1,000語を学習する語彙の3種類のメニューで構成されています。本学医学部の2・3学年次生の「ジャーナルクラブ」の授業で活用されていますが、上級生や病院のスタッフの方にとっても基礎力を養うにはうってつけの学習ソフトです。

今回はそのソフトの人気メニューである基本医療語彙の学習を、お手持ちの携帯電話で、どこでもスキマ時間に行うことができる「モバイルアカデミー」を紹介したいと思います。

毎日決まった時刻になるとあなたの携帯電話に「今日もトレーニングを始めましょう!」というメールが届き、1日3問の問題を解きながら英単語を覚えていくことができます。必ずしもメールが届いた時に学習しなくてもよいのですが、習慣として毎回10分間単語学習に取り組むことで、確実に語彙力を伸ばすことができます。学習コンテンツとしては、医療英語の他に、一般英語の英単語SLV12000や漢字検定模擬問題（漢検2～5級）も用意されており、3種類を同時並行で学習することもできます。間違えた問題は再び出題されるため、学習効果も高いです。また、学習進捗の確認も自分でできますので、「この章は半分まで制覇した!」というように動機付け

が高まります。

残念ながら、こちらのモバイル版では音声は出ませんが、ネットアカデミー2 医学英語を使ってコンピュータで正しい発音を確認しながら学習をし、復習として携帯電話で語彙が身についたかどうかを確認するとよいでしょう。もちろん、モバイルアカデミーだけで学習することも可能です。希望者には登録方法とIDをお伝えしますので、情報処理センターまで「モバイルアカデミー登録希望」のメールを送ってくださるか、センターの受付で申請してください。

◆センターからのお知らせ

【オープン利用室リニューアル】

オープン利用室を改装し、全てのコンピュータにヘッドセットをつけました。これで、マルチメディア教室を授業で使用している時にも、ここで音声を使った語学練習ができるようになりました。また今回、オープン利用室2の各ブースには、発音練習の際に自分の口の形を確認できるように、正面に小さな鏡をつけました。

【大判プリンター予約状況確認】

大判プリンターの出力利用が最近増えてきましたので、プリンターが空いているかどうかを、センターのホームページから確認できるようにしました。<http://banana/>で、番の大判プリンター紹介ホームページをクリックし、予約状況確認のボタンを押し、空いている時間帯を確認して、情報処理センターに電話で予約をしてください。

ー病院から現場へ飛び出す医療へー

最近役所、ホテルのロビー、駅のホーム、空港、アスレチックジムなど至るところでAED（自動体外式除細動器）を見かけます。つい数年前なら「AED知ってる？」と言われても「それって何？」という答えが返ってきたものでした。ところが最近では、使い方は知らないけど、少なくとも聞いたことはあるという方が多いと思います。

さて、お隣の中国からは、上海万博会場の様子が連日ニュースで伝わってきます。ちょうど5年前の愛・地球博を懐かしく思い出される方も多いことでしょう。実はこの愛知万博が開催された2005年は、“日本のAED元年”と言っても過言ではありません。なぜなら半年の開期中に約2,200万人が訪れた愛知万博では、心臓発作のため5名の方が突然倒れましたが、そのうち4名の方は社会復帰できました。この成績に対し救急医療関係者からは高い評価を得ました。

万博のような大きなイベントでは、ある一定の割合でこのような事態が発生することは十分に予想されることです。愛知医大の救急医を始め、県内そして広く全国から救急医が集結し、県内の看護師・救急救命士も加えてチームを編成し、会場内の急病人に迅速に対応できるよう周到に準備したことが大きな成果をもたらしたのです。このチームは会場内に設営された救護所とは本質的に異なり、現場へ急行するというもので、電気カートが大変役に立ちました。やはり医師は倒れている患者さんのそばへ出向くことが、救急診療の原点と言えます。

ドクターヘリはまさに現場へ出向く医療であり、最近では着実に全国展開が進み、現在20数か所で運航されています。2002年に愛知

県では愛知医大を基地病院として、全国で4番目に導入され、これまでに約3,600件（2009年末までの8年間）の出動要請がありました。数々の救命例はもちろんですが、残念ながら救命に至らなかったケースもあります。そして今、新しいスタイルのドクターカーの運用が全国で広がりつつあります。ヘリコプターであれ、自動車であれ、乗り物の種類にこだわることなく、現場へ出向くのに一番適した方法を選択し、各々の弱点を補完できればよいのです。愛知医大もごく近い将来に、ドクターヘリとドクターカーの両者を有効利用した現場出動体制の整備に向け検討が始まろうとしています。

さてテレビ番組「コードブルー」は相当な人気だったようですが、やはりあれはテレビの世界であり、外傷例がやたら多いという印象は否めません。現実には重症外傷はもちろんですが、急性心筋梗塞や脳卒中などかなり占めます。このような疾患では状況によってはAEDが必要なこともあります。

突然、目の前で愛する人が倒れたら、家族はすぐに119番通報し、消防の判断で出動要請されたドクターヘリ医師・看護師も現場へ急行します。今か今かと待ち受ける家族は動揺のあまり、何もできないかもしれません。しかし、こんな時こそ冷静になって、正しくAEDを使えたなら救命のチャンスは広がります。

今、救急医療は患者さんを病院で待ち受けるのではなく、医師が現場へ向かう時代です。そんな時代だからこそ、多くの市民が心肺蘇生法とAEDの使い方を正しく学び、まさかの時に愛する人を救うことができる、そんな社会に近づけたら素晴らしいですね。